

III. 港湾施設の規模及び配置に関する資料

1. 公共埠頭計画

1-1 公共埠頭の現況

(1) 公共埠頭の利用状況

公共埠頭の主要取扱貨物等の利用状況は次のとおりである。

表 III-1-1 埠頭別の利用状況(平成 22 年)

地区名	埠頭名	施設諸元	主要取扱貨物等	備考
大黒ふ頭	大黒ふ頭	-15m × 700m (2B) -13m × 300m (1B) -12m × 1,020m (4B) -10m × 2,710m (14B) -7.5m × 520m (4B) -4.5m × 1,620m (4B)	その他金属機械 13,657 千トン 金属 1,518 千トン 特殊品 844 千トン その他 2,748 千トン 合計 18,767 千トン	既設
神奈川	出田町ふ頭	-7.5m × 520m (4B) -4.5m × 233m (2B)	その他農水産品 275 千トン その他 1 千トン 合計 275 千トン	既設
	瑞穂ふ頭	-10m × 170m (1B)	砂利・砂・石材 1,331 千トン その他鉱産品 12 千トン 特殊品 2 千トン 合計 1,344 千トン	
内港	山内ふ頭	-7.5m × 130m (1B)	—	既設
	新港ふ頭	-7.5m × 680m (4B)	—	既設
山下ふ頭	山下ふ頭	-12m × 420m (2B) -10m × 1,440m (8B) -4.5m × 513m (3B)	金属 163 千トン その他金属機械 133 千トン その他化学工業品 18 千トン その他 2 千トン 合計 315 千トン	既設
本牧ふ頭	本牧ふ頭	-15m × 690m (2B) -14m × 300m (1B) -13m × 1,414m (6B) -12m × 1,100m (4B) -11m × 206m (2B) -10m × 1,585m (8B) -9m × 145m (1B) -4.5m × 759m (5B)	その他金属機械 10,116 千トン 特殊品 5,902 千トン 雑工業品 5,047 千トン その他 13,637 千トン 合計 34,703 千トン	既設
南本牧ふ頭	南本牧ふ頭	-16m × 700m (2B)	その他金属機械 3,549 千トン 特殊品 2,875 千トン 雑工業品 1,710 千トン その他 5,862 千トン 合計 13,996 千トン	既設
金沢	金沢ふ頭	-10m × 187m (1B) -5.5m × 355m (4B)	砂利・砂、石材 362 千トン 特殊品 203 千トン 雑工業品 90 千トン その他 37 千トン 合計 691 千トン	既設

大黒ふ頭

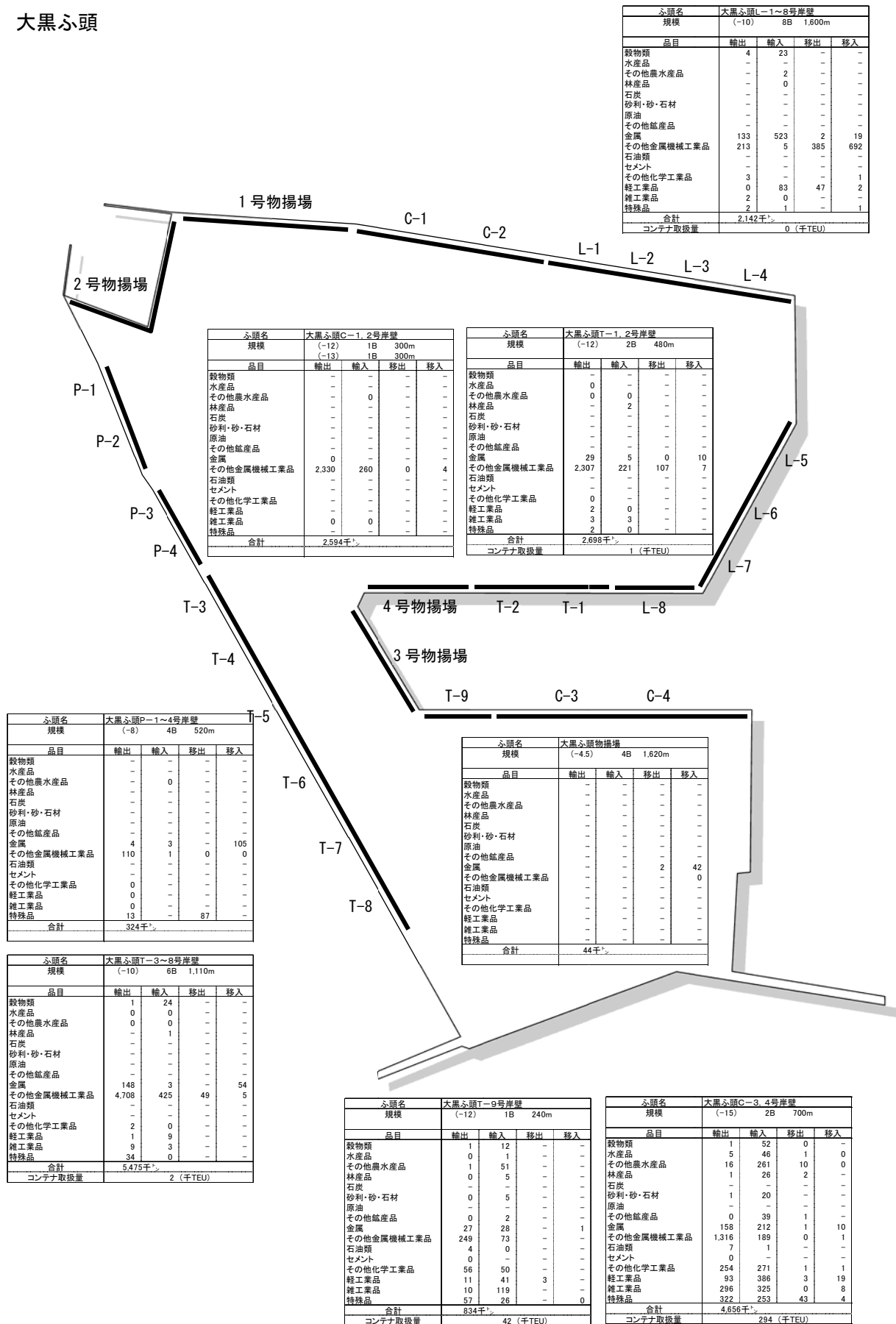


図 III-1-1 公共埠頭取扱状況図（大黒ふ頭）（平成 22 年）

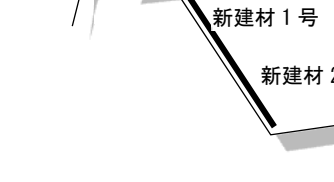
本牧ふ頭

ふ頭名 本牧ふ頭A突堤基部岸壁					ふ頭名 本牧ふ頭A-1～3号岸壁				
規模 (-5.5) 1B 100m					規模 (-10) 3B 600m				
品目	輸出	輸入	移出	移入	品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-	穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-	水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-	その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-	林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-	石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-	砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-	原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-	その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-	金属	30	23	-	4
その他金属機械工業品	-	-	-	-	その他金属機械工業品	126	1	-	-
石油類	-	-	-	-	石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	1	-	セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-	その他化学工業品	1	0	-	-
軽工業品	-	-	-	-	軽工業品	0	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-	雑工業品	1	0	-	-
特殊品	-	-	-	-	特殊品	0	0	2	-
合計	1千ト	-	-	-	合計	188千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	-	-	-	-	コンテナ取扱量	0 (千TEU)	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭A-5.6号岸壁				
規模 (-12) 2B 600m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	0	36	0	0
水産品	7	52	3	0
その他農水産品	7	146	11	0
林産品	5	18	10	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	1	12	-	0
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	1	13	1	-
金属	84	161	9	1
その他金属機械工業品	664	316	1	0
石油類	10	1	-	-
セメント	-	-	0	-
その他化学工業品	178	131	4	0
軽工業品	60	279	11	9
雑工業品	45	400	0	1
特殊品	190	99	34	1
合計	3,014千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	181 (千TEU)	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭A-7.8号岸壁				
規模 (-12) 2B 500m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	0	15	-	-
水産品	0	11	-	-
その他農水産品	3	81	-	-
林産品	2	21	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	6	21	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	0	9	-	-
金属	102	167	-	-
その他金属機械工業品	652	307	-	-
石油類	4	0	-	-
セメント	-	0	-	-
その他化学工業品	160	124	-	-
軽工業品	49	137	-	-
雑工業品	63	365	-	-
特殊品	155	94	-	-
合計	2,546千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	146 (千TEU)	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭B-1～4号岸壁				
規模 (-10) 4B 800m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	4	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	0	13	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	0	-	-	-
金属	254	14	-	63
その他金属機械工業品	260	8	1	0
石油類	0	-	-	-
セメント	-	0	-	-
その他化学工業品	13	0	-	-
軽工業品	11	1	-	-
雑工業品	9	74	-	-
特殊品	10	1	7	-
合計	744千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	1 (千TEU)	-	-	-



ふ頭名 本牧ふ頭新建材1.2号岸壁				
規模 (-10) 1B 185m (-9) 1B 145m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	97
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	65	-	965
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	1
合計	1,129千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	-	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭D-1～3号岸壁				
規模 (-11) 3B 620m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	2	-	-
水産品	-	4	-	-
その他農水産品	10	20	-	-
林産品	0	3	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	0	1	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	1	2	-	-
金属	35	43	-	-
その他金属機械工業品	243	82	-	-
石油類	7	1	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	209	75	-	-
軽工業品	34	36	-	-
雑工業品	60	125	-	-
特殊品	100	42	20	8
合計	1,164千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	84 (千TEU)	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭C-5～9号岸壁				
規模 (-13) 5B 1,000m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	4	37	1	0
水産品	49	57	5	2
その他農水産品	23	178	1	0
林産品	105	86	3	0
石炭	-	0	-	-
砂利・砂・石材	10	360	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	6	24	0	-
金属	334	393	4	0
その他金属機械工業品	2,179	818	1	6
石油類	16	7	0	-
セメント	0	2	-	-
その他化学工業品	917	424	2	1
軽工業品	296	437	3	17
雑工業品	354	1,226	3	40
特殊品	850	338	484	479
合計	10,486千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	679 (千TEU)	-	-	-

ふ頭名 本牧ふ頭D-4.5号岸壁				
規模 (-14) 1B 300m (-15) 1B 300m				
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	14	50	0	-
水産品	111	234	2	-
その他農水産品	62	620	10	0
林産品	59	285	3	-
石炭	-	0	-	-
砂利・砂・石材	1	11	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	2	22	0	-
金属	186	235	0	-
その他金属機械工業品	2,734	341	1	-
石油類	16	8	0	-
セメント	-	0	-	-
その他化学工業品	377	330	3	-
軽工業品	189	811	5	22
雑工業品	470	362	1	1
特殊品	472	907	434	489
合計	9,879千ト	-	-	-
コンテナ取扱量	579 (千TEU)	-	-	-

図 III-1-2 公共埠頭取扱状況図 (本牧ふ頭) (平成 22 年)

南本牧ふ頭

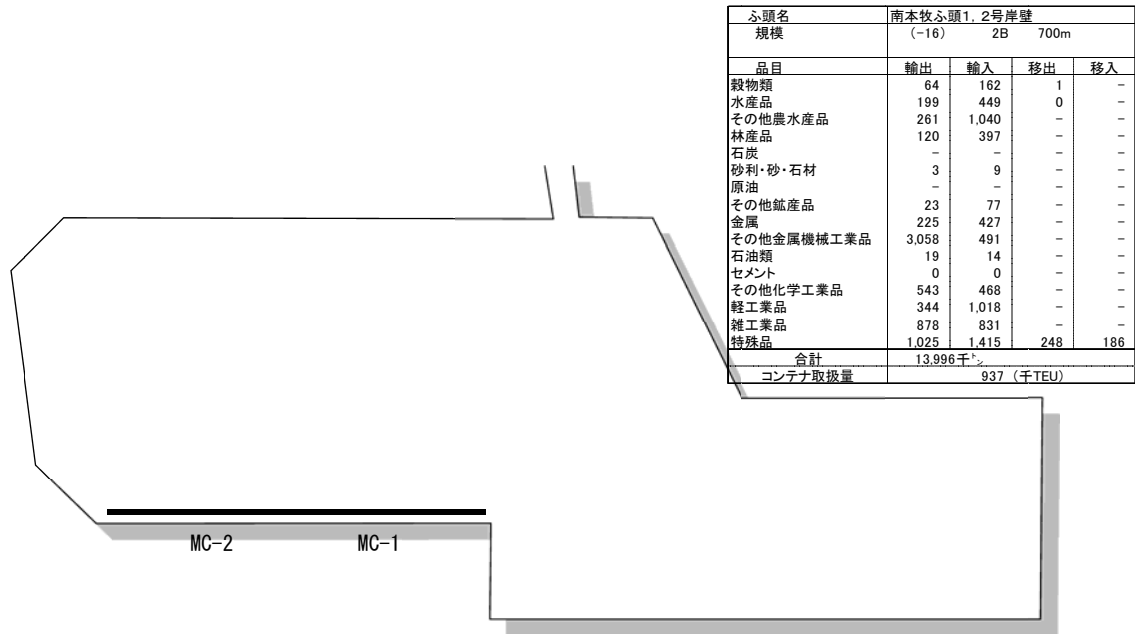


図 III-1-3 公共埠頭取扱状況図（南本牧ふ頭）（平成 22 年）

金沢木材ふ頭

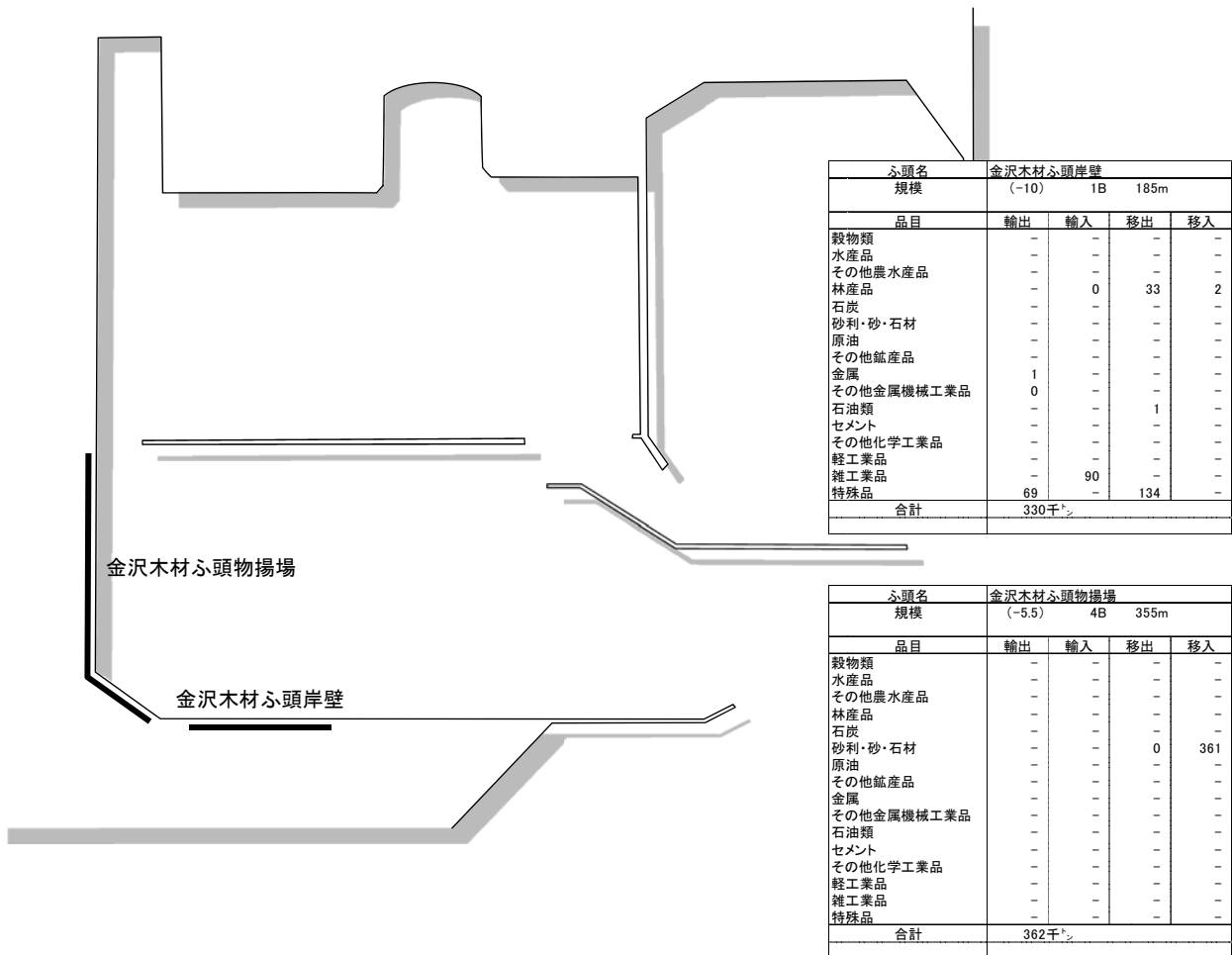
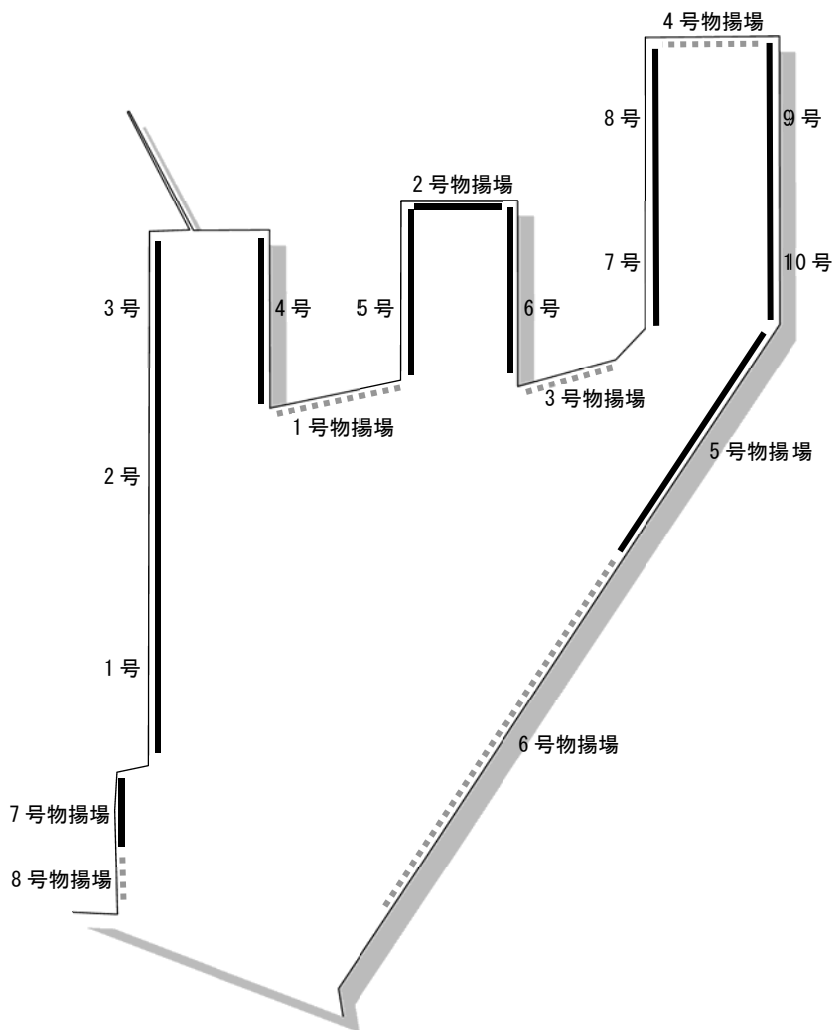


図 III-1-4 公共埠頭取扱状況図（金沢木材ふ頭）（平成 22 年）

山下ふ頭



ふ頭名	山下ふ頭1～3号岸壁			
規模	(-10)	1B	180m	
	(-12)	2B	420m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	36	-	-	8
その他金属機械工業品	48	-	1	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	1	-	-	11
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	0	-	-	-
特殊品	0	-	-	-
合計	104千 ^ト	-	-	-
コンテナ取扱量	0 (千TEU)			

ふ頭名	山下ふ頭4. 5号岸壁			
規模	(-10)	2B	360m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	-
合計	0千 ^ト	-	-	-

ふ頭名	山下ふ頭6～8号岸壁			
規模	(-10)	3B	540m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	38	-	-	6
その他金属機械工業品	16	-	-	0
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	0	-	-	5
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	0	-	-	-
特殊品	0	-	-	-
合計	65千 ^ト	-	-	-

ふ頭名	山下ふ頭9. 10号岸壁			
規模	(-10)	2B	360m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	58	-	-	16
その他金属機械工業品	67	0	-	0
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	1	-	-	1
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	0	-	-	-
特殊品	1	-	-	-
合計	145千 ^ト	0	-	-

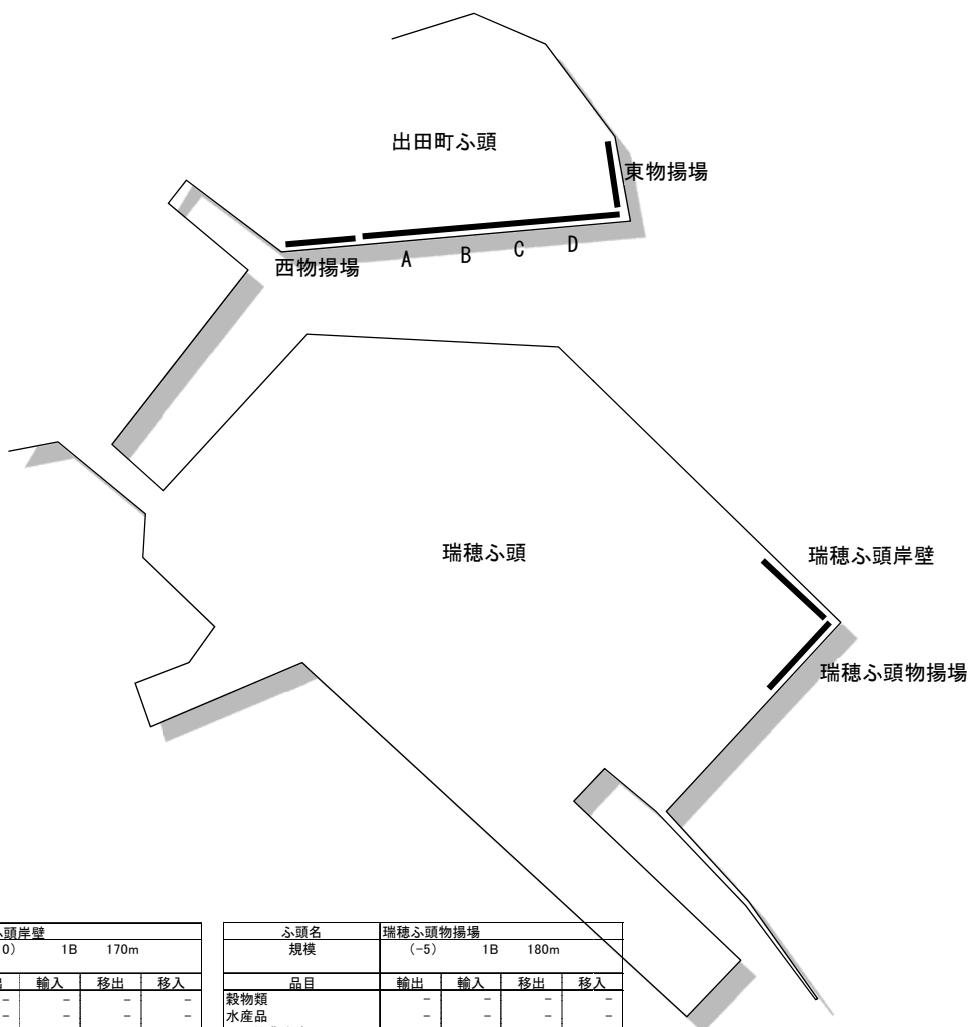
ふ頭名	山下ふ頭物揚場			
規模	(-4.5)	3B	513m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	0
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	0
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	-
合計	0千 ^ト	-	-	-

図 III-1-5 公共埠頭取扱状況図 (山下ふ頭) (平成 22 年)

出田町ふ頭、瑞穂ふ頭

ふ頭名	出田町ふ頭A～D号岸壁			
規模	(-7.5) 4B 516m			
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	275	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	0	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	0	-	-
特殊品	-	0	-	-
合計	275千ト			

ふ頭名	出田町ふ頭物揚場			
規模	(-4.5) 2B 233m			
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	-
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	-
合計	0千ト			



ふ頭名	瑞穂ふ頭岸壁			
規模	(-10) 1B 170m			
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	519
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	12
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	-
合計	532千ト			

ふ頭名	瑞穂ふ頭物揚場			
規模	(-5) 1B 180m			
品目	輸出	輸入	移出	移入
穀物類	-	-	-	-
水産品	-	-	-	-
その他農水産品	-	-	-	-
林産品	-	-	-	-
石炭	-	-	-	-
砂利・砂・石材	-	-	-	813
原油	-	-	-	-
その他鉱産品	-	-	-	-
金属	-	-	-	-
その他金属機械工業品	-	-	-	-
石油類	-	-	-	-
セメント	-	-	-	-
その他化学工業品	-	-	-	-
軽工業品	-	-	-	-
雑工業品	-	-	-	-
特殊品	-	-	-	-
合計	813千ト			

図 III-1-6 公共埠頭取扱状況図（出田町ふ頭、瑞穂ふ頭）（平成 22 年）

山内ふ頭、内港地区（中央地区、新港ふ頭）、大さん橋ふ頭

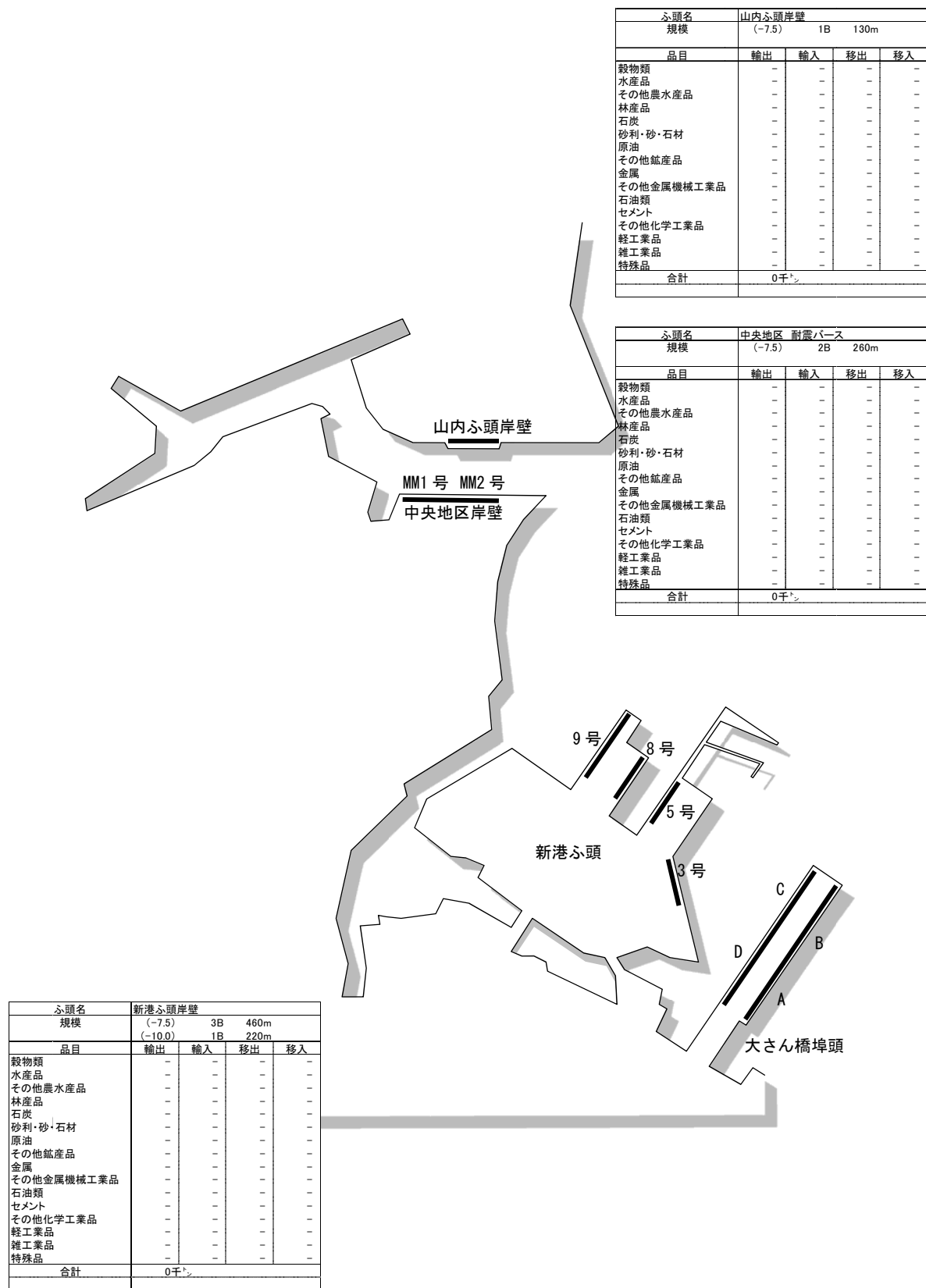


図 III-1-7 公共埠頭取扱状況図（山内ふ頭、内港地区）（平成 22 年）

1-2 コンテナ埠頭計画

(1) コンテナ埠頭の現況

① コンテナ埠頭の利用状況等

コンテナ埠頭の取扱貨物等の利用状況は次のとおりである。

表 III-1-2 コンテナ埠頭の利用状況

地区名	バース名	施設諸元		埠頭用地		H22 取扱量		ターミナル借受者等	
		水深	延長	面積	奥行	千 TEU	千ト	借受者等	GC 基数
大黒ふ頭	C3	15m	350m	17.5ha	500m	外： 331 内： 9 計： 340	5,257 105 5,363	日本通運 上組	6
	C4	15m	350m	15.3ha	500m			日本郵船	
	T9	12m	240m	8.4ha	350m			公共	2
本牧ふ頭	A5	12m	300m	22.1ha	330～ 400m	外： 1,790 内： 201 計： 1,990	30,469 2,187 32,655	川崎汽船	2
	A6	12m	300m					川崎汽船 日新, 京浜港運	2
	A7	12m	250m	8.1ha	330m			日新, 京浜港運	2
	A8	12m	250m	8.4ha	150～ 350m			-	-
	BC1	15～16m	390m	38.1ha	150～ 500m			YPM	3
	C5	13m	200m					YPM	8
	C6	13m	200m					YPM	
	C7	13m	200m					YPM	
	C8	13m	200m					YPM	
	C9	13m	200m					YPM	
	D1～D3	13m	400m	19.6ha	350m			公共	5
	D4	15～16m	400m	18.7ha	400m			APL	3
D5	15～16m	300m	13.0ha	300m	商船三井	3			
南本牧ふ頭	MC1	16m	350m	37.5ha	500m	外： 869 内： 68 計： 937	13,557 435 13,992	マースク 日新	6
	MC2	16m	350m					マースク	

※施設諸元等は平成 25 年度末時点

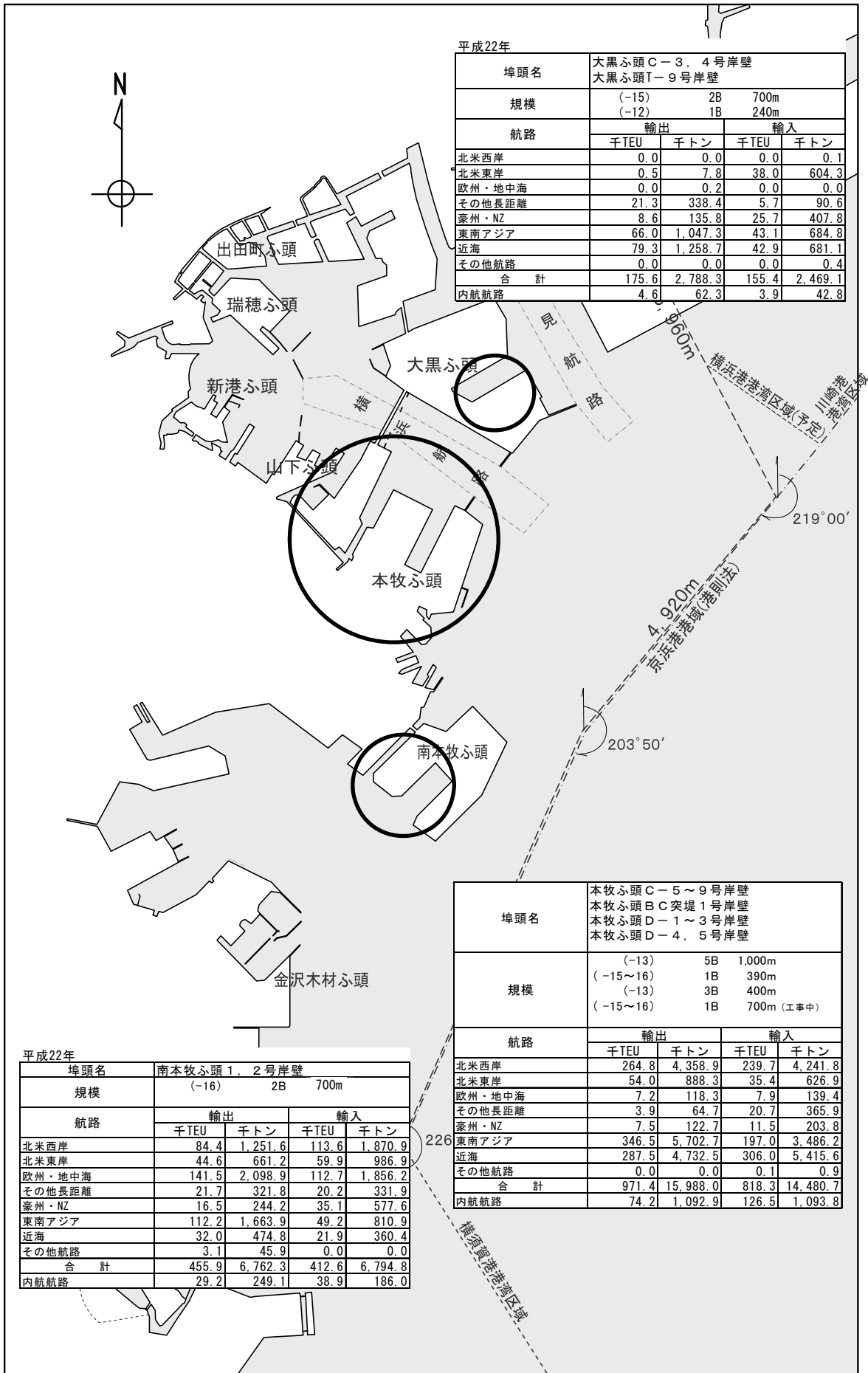


図 III-1-8 外貿コンテナ埠頭取扱状況図 (平成 22 年)

② 水深別コンテナ埠頭延長の現況

水深別のコンテナ埠頭延長の現況は次のとおりである。

表 III-1-3 水深別コンテナ埠頭延長

水深	既設		既定計画	
	バース数	延長 (m)	バース数	延長 (m)
18m～	—	—	2	800
16m	2	700	—	—
15m～16m	3	1,090	1	310
15m	2	700	—	—
13m	6	1,400	—	—
12m	5	1,340	—	—
合計	18	5,230	3	1,110

(2) コンテナ埠頭計画の必要性と計画内容

① 背景・要請

- ・ 基幹航路におけるコンテナ船の大型化、及び寄港地の集約化に伴う国際トランシップ機能や内航船接続機能の強化
- ・ アジア諸国の経済成長等に伴う貨物量増加、及びアジア域内航路や南北航路においても進展するコンテナ船の大型化などについて対応を図ることが不可欠である。

② 計画の方向性

- ・ 国際コンテナ戦略港湾として、基幹航路をはじめとするコンテナ船の大型化や貨物量の増加に対応するため、南本牧ふ頭の機能を強化するとともに本牧ふ頭沖に新たな埠頭（新本牧ふ頭）を計画する。
- ・ 積替えの円滑化を可能にする効率的なターミナル運営を行うため、本牧ふ頭のターミナル機能を再編・強化する。
- ・ 近海・内貿貨物を積極的に獲得していくため、本牧 B 岸壁、C 岸壁・D1 岸壁の基部および新本牧ふ頭の基部に、内航船等の着岸を想定してバースウインドウを確保し、外内貿の一体的な運用に対応したコンテナターミナルの形成を進める。

③ 計画内容

【南本牧ふ頭】

- ・超大型コンテナ船の寄港に対応し、連続バースとしての機能を強化するため、MC-3, 4 岸壁の延長を 900m（取付部を含めて 940m）とする。

【本牧ふ頭】

- ・本牧ふ頭 BC ターミナルの機能強化を図るため、B2, 3 岸壁の用途を船舶の物資補給用の岸壁からコンテナ貨物の取扱に変更するとともに、BC1, 2, D4, 5 岸壁の水深を 16m、C1~3 岸壁の延長を 1,000m、D1 岸壁の延長を 500m、同水深を 14m とする。
- ・効率的なターミナル運営のため、CD 突堤間を埋め立て、BC 及び D 突堤の一体的利用を図る。
- ・今後の拡張が難しい本牧ふ頭 A 突堤の用途をコンテナ貨物の取扱から一般貨物および旅客の取扱に変更する。

【新本牧ふ頭】

- ・将来に向けて新たな物流拠点の形成を図るため、大水深・高規格コンテナターミナルと高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を一体的に配置した新たな埠頭を計画する。
- ・埋立場所は、航行船舶への影響や土地利用、自然水深の状況などから総合的に判断し、本牧ふ頭沖とする。
- ・埠頭形状は、利用する船舶が風や波の影響を受けにくく、かつ、周辺の船舶が安全に航行できる形状とする。また、高規格コンテナターミナルとしての奥行きやロジスティクス施設用地の必要量を確保するとともに、将来の岸壁の延伸や、用地の拡張などにも対応できる形状とする。
- ・岸壁は、超大型コンテナ船に対応可能な水深 18m 以上、かつ、多様な航路の船舶を複数同時接岸できる延長 800m の連続バースとする。また、将来構想として 1,400m の岸壁延長を確保できる配置とする。
- ・大規模かつ長期的な計画となることから、全体を 2 期に分け、第 1 期分について土地利用計画を定め、第 2 期分は土地利用計画を定めない海面処分用地とする。
- ・コンテナターミナル背後には、ロジスティクス施設用地を配置する。また、本牧ふ頭とも一体的な利用を図る。

(3) コンテナ埠頭の規模の設定

① コンテナバースの必要延長

公共コンテナ貨物の取扱量の設定値に対し、新規に計画することが必要な施設は次のとおりである。

表 III-1-4 コンテナ岸壁の必要延長

取扱量の設定値 (千 TEU)	既存埠頭の 取扱量 (千 TEU)	対応必要量 (千 TEU)	新規に計画が必要な 岸壁延長
設定値 5,180	3,281	1,899	1,500m (うち長距離対応用 900m)
長距離航路 2,097			
中・短距離その他航路 2,549			
内航 534			

② コンテナターミナルの規模

今回計画するコンテナターミナルの規模は次のとおりである。

表 III-1-5 コンテナターミナルの規模の設定

地区名	施設名	水深	バース数	延長	ターミナル 面積	対応	施設規模の考え方
本牧 ふ頭	HB2, 3	10m	2	400m	100.0ha	既設の変更 計画（用途）	中・短距離航路船・内航船のバースウ ィンドウを確保するため、物資補給岸 壁からコンテナ船対応岸壁とする。
	HBC1, 2	16m	2	700m (390m 既設)		既定計画の 変更計画 (水深)	基幹航路対応の連続バースとする。
	HC1~3	13m	3	1,000m		既設の変更 計画（延伸）	中・短距離航路船・内航船のバースウ ィンドウを確保するため、岸壁延長を 延伸する。
	HD1	14m	1	500m		既設の変更 計画（水深）	中型コンテナ船対応岸壁とする。
	HD4, 5	16m	2	700m	29.2ha	既設の変更 計画（水深）	基幹航路対応の連続バースとする。
新本牧 ふ頭	SH1, 2	18m~	2	800m	42.5ha	新規計画	超大型コンテナ船に対応可能な水深、 かつ、多様な航路の船舶の同時接岸が 可能な連続バースとする。
南本牧 ふ頭	MC3, 4	18m~	2	900m	40.0ha	既定計画の 変更計画	超大型コンテナ船の同時接岸にも対応 可能な連続バースとする。
	-	4.5	1	120m	-	既定計画の 削除	埠頭内の施設配置を見直し計画を削 除する。

③ コンテナ埠頭の用地面積

今回計画するコンテナ埠頭の用地面積については次のとおりである。

表 III-1-6 コンテナ埠頭の用地面積

地区名	水深	バース数	延長	埠頭の奥行き	埠頭用地面積	埠頭用地面積の設定の考え方
新本牧ふ頭	18m～	2	800m	最大700m	88.7ha	コンテナターミナル、バンプール、シャーシプール、待機レーンなどのコンテナ関連用地およびロジスティクス用地の必要量を確保する。



図 III-1-9 外貿コンテナ埠頭計画図

1-3 一般貨物を取扱う公共埠頭計画

(1) 水深別公共埠頭延長の現況

水深別の公共埠頭延長の現況はそれぞれ次のとおりである。

表 III-1-7 水深別公共埠頭延長

地区名		水深	既 設		備考
			バース数	延長 (m)	
大黒ふ頭		13m	1	300	
		12m	3	780	
		10m	14	2,710	
		7.5m	4	520	
		4.5m	1	540	
神奈川	瑞穂ふ頭	10m	1	170	
		5m	1	180	
	出田町	7.5m	4	520	
		4.5m	2	233	
内港	山内	7.5m	1	130	
	中央	7.5m	2	260	
山下ふ頭		12m	2	420	
		10m	8	1,440	
		4.5m	3	513	
本牧ふ頭		10m	4	785	
		9m	1	145	
金沢		10m	1	230	
		5.5m	4	355	
合計			57	10,231	

注) 外内貿コンテナ埠頭、旅客船埠頭、小型船だまり及び物資補給岸壁は除く

(2) 一般貨物埠頭計画の必要性と計画内容

① 必要性と背景

物流や海運動向に的確に対応し、一般貨物を効率的に取扱えるよう埠頭の機能転換や集約を進め、再編・強化を図る必要がある。

また、主力品目である完成自動車の取扱において、ヤードやバースウインドウの不足等が生じており、これに対応する必要がある。

② 計画の方向性

横浜港の主力取扱貨物である完成自動車をはじめ、コンテナ以外の貨物を効率的に取り扱えるよう、埠頭の機能転換や集約を進める。

埠頭名	計画の方向性
大黒ふ頭	<ul style="list-style-type: none">・幹線道路との良好なアクセス、多様なバース構成を活かし、ロジスティクス施設の集積を図る。・将来的に、完成自動車等の国際トランシップや国内メーカーの海外工場からの輸入車等も取り込む RORO ターミナルの形成などを視野に入れ、完成自動車の輸出入拠点としての機能を強化する。
本牧ふ頭	<ul style="list-style-type: none">・本牧ふ頭 A 突堤はコンテナターミナルの拡張が困難なことから、機能転換により一般貨物を中心に取扱機能の強化を図る。・近海航路、内航航路の貨物の取扱い強化を図るため、ターミナルの拡張とともに B 岸壁をコンテナ貨物取扱岸壁に転換する。
山下ふ頭	<ul style="list-style-type: none">・施設の老朽化、物流環境の変化を踏まえ、一般貨物を取り扱う埠頭から、新たな賑わい拠点への機能転換を進める。
瑞穂ふ頭 金沢木材ふ頭 本牧建材ふ頭	<ul style="list-style-type: none">・これまで同様、建材貨物を中心に扱う。
出田町ふ頭	<ul style="list-style-type: none">・これまで同様、青果貨物を中心に扱う。

(3) 計画内容

○大黒ふ頭 P3, 4、T3～8 岸壁のバース水深を 11.0m に増深し、T3～8 岸壁と P3, 4 岸壁を連続バースとする。これにより、PCC や RORO 船のバースウインドウを拡張し、トランシップ荷役効率の向上等、完成自動車の取扱機能を強化する。

○大黒ふ頭 L5～L8 岸壁を現状水深に合わせ 12m とする。

○本牧ふ頭 A5～8 号岸壁の用途をコンテナ貨物等の取扱から一般貨物および旅客の取扱に変更する。

○山下ふ頭は、一般貨物を扱う埠頭から新たな賑わいの拠点へと機能転換する。

○出田町ふ頭 C～D 岸壁を現状水深に合わせ 9m とする。

(4) 一般貨物埠頭の規模の設定

一般貨物埠頭のバース水深、延長、規模を以下の通り設定する。

表 III-1-8 一般貨物埠頭の規模

埠頭名	水深	バース数	延長	対応	規模の設定の考え方
大黒ふ頭	12m	4	800m	既設の変更計画 (水深)	岸壁水深を現状水深に合わせて変更する。
	11m	2	290m	既設の変更計画 (水深・延長・ 土地利用)	完成自動車の取扱機能を強化するため、岸壁水深を増深し、連続バースとしての利用へ変更する。
	11m	6	1,110m		
出田町ふ頭	9m	2	250m	既設の変更計画 (水深)	岸壁水深を現状水深に合わせて変更する。
本牧ふ頭	12m	4	1,100m	既設の変更計画 (用途)	コンテナ埠頭から、一般貨物及び超大型客船対応の埠頭に転換する。

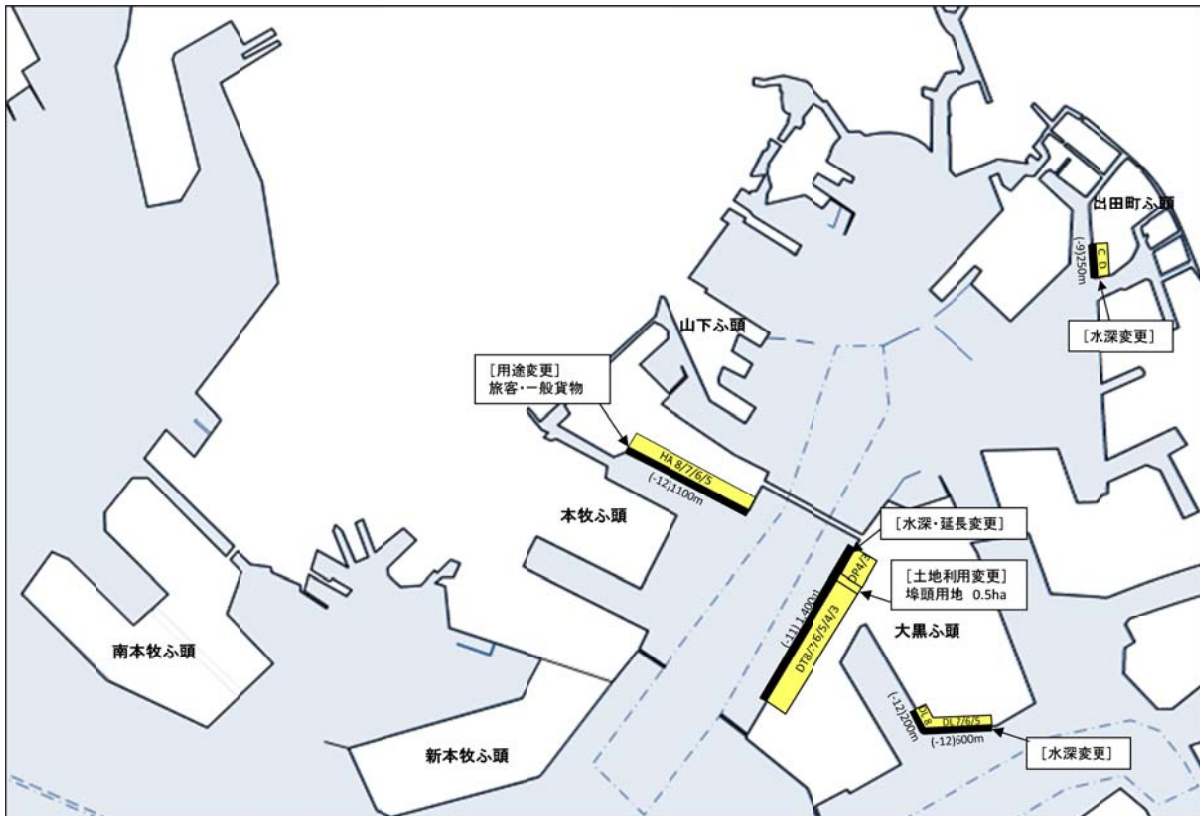


図 III-1-10 公共埠頭計画

2. 旅客船埠頭計画

(1) 旅客船埠頭の現況

旅客船埠頭の現況は次のとおりである。

表 III-2-1 旅客船埠頭の現況

地区名	施設名	水深	バース数	延長	状況
内港 (中央地区)	小型さん橋	-	1	-	既定計画
	小型さん橋	-	2	-	既定計画
	SK9	9m	1	340m	既定計画
内港 (大さん橋埠頭)	A, B	12m	1	450m	既設
	C, D	10m~11m	1	450m	既設

(2) 旅客船埠頭の必要性と計画内容

① 必要性と背景

世界のクルーズ人口は急増し、特にアジアではその傾向が強い。横浜港へ寄港する客船は大型化が進み、寄港数も増加している。行楽シーズンには、旅客船の寄港が集中する傾向にあり、現在の施設では十分に受け入れることができず、寄港日の変更や沖待ちによる時間変更などで対応している。また、調整がとれずに貨物船バースへ配船するケースも発生している。さらに、横浜ベイブリッジを通過できない超大型客船への対応も必要となっている。

港内遊覧船については、内港地区を中心に多数運航されており、みなとみらい地区、山下公園、中華街など横浜港周辺の集客施設を訪れる観光客の移動手段のひとつとなっている。これらは、地点間の移動手段であるほか、横浜を訪れる観光客が横浜港の状況を知る機会として有効であり、現在の内港地区を中心としたルートに加え、周辺地区にネットワークを広げるにより、需要拡大の可能性を持っている。

② 計画の方向性

- ・日本を代表するクルーズポートとして、船舶の大型化や寄港数の増加に対応し、クルーズ客船の受入機能を強化する。
- ・超大型客船については、優先的に着岸できる岸壁を横浜ベイブリッジの外側に配置する。
- ・目標年次における港内遊覧船の利用者数は、現状程度と見込んでいる。水上交通ネットワークの充実に向けた取り組みを進める。

③ 計画内容

- ・超大型客船を優先的に受け入れる多目的岸壁として、本牧ふ頭 A5~8 号岸壁の用途を変更する。
- ・水上交通および背後の土地利用に合わせ、内港地区の小型さん橋計画を削除する。

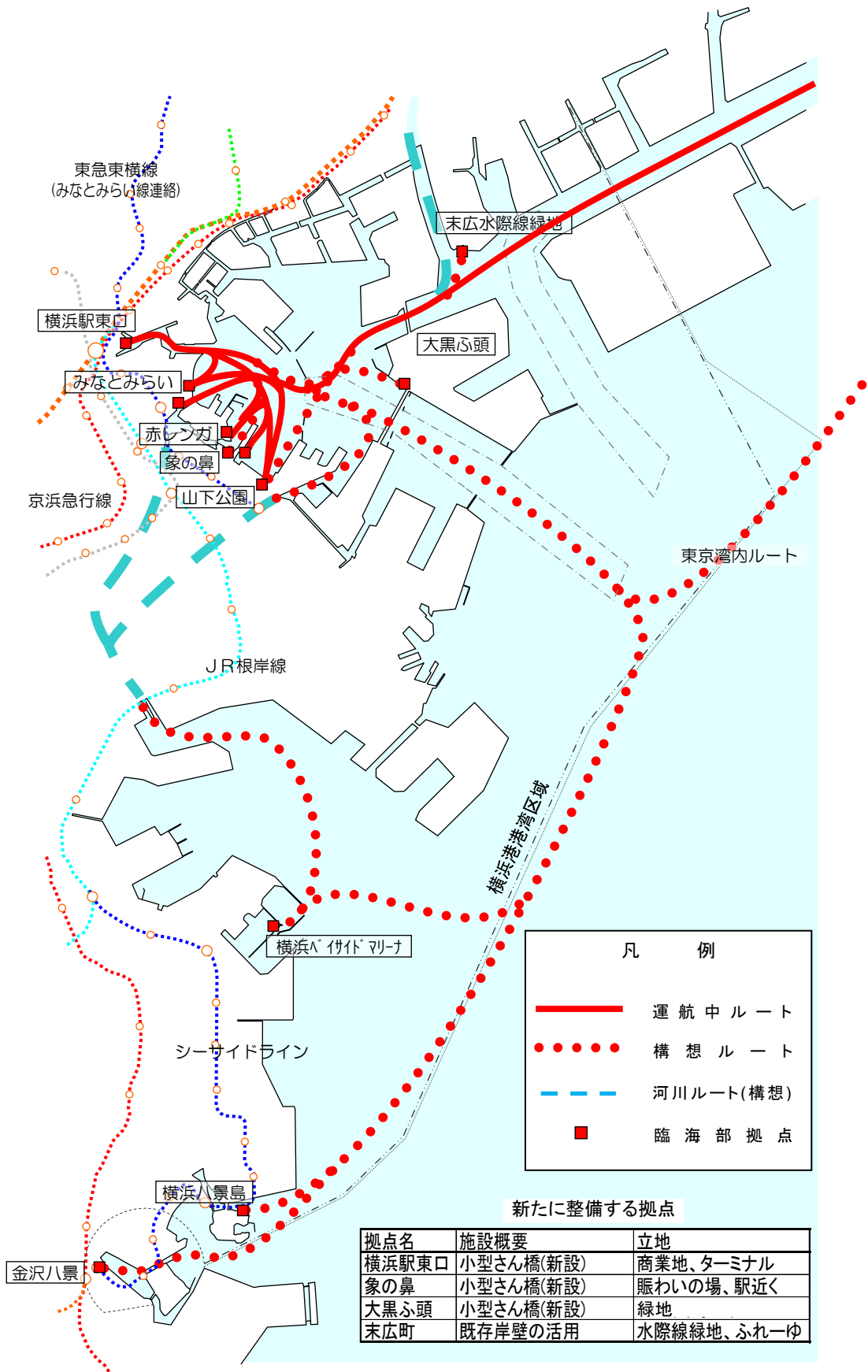


図 III-2-1 水上交通ネットワーク図

(3) 今回計画する旅客船埠頭の規模及び配置

表 III-2-2 今回計画する旅客船埠頭の規模及び配置

地区名	施設名	水深	バース数	延長	対応
内港 (中央地区)	小型さん橋	-	2	-	背後の土地利用変更に合わせて、 計画を削除する。
本牧ふ頭	A5~8	12m	4	1,100m	超大型客船の寄港に対応した多目的 的岸壁とする。(一般貨物・旅客)

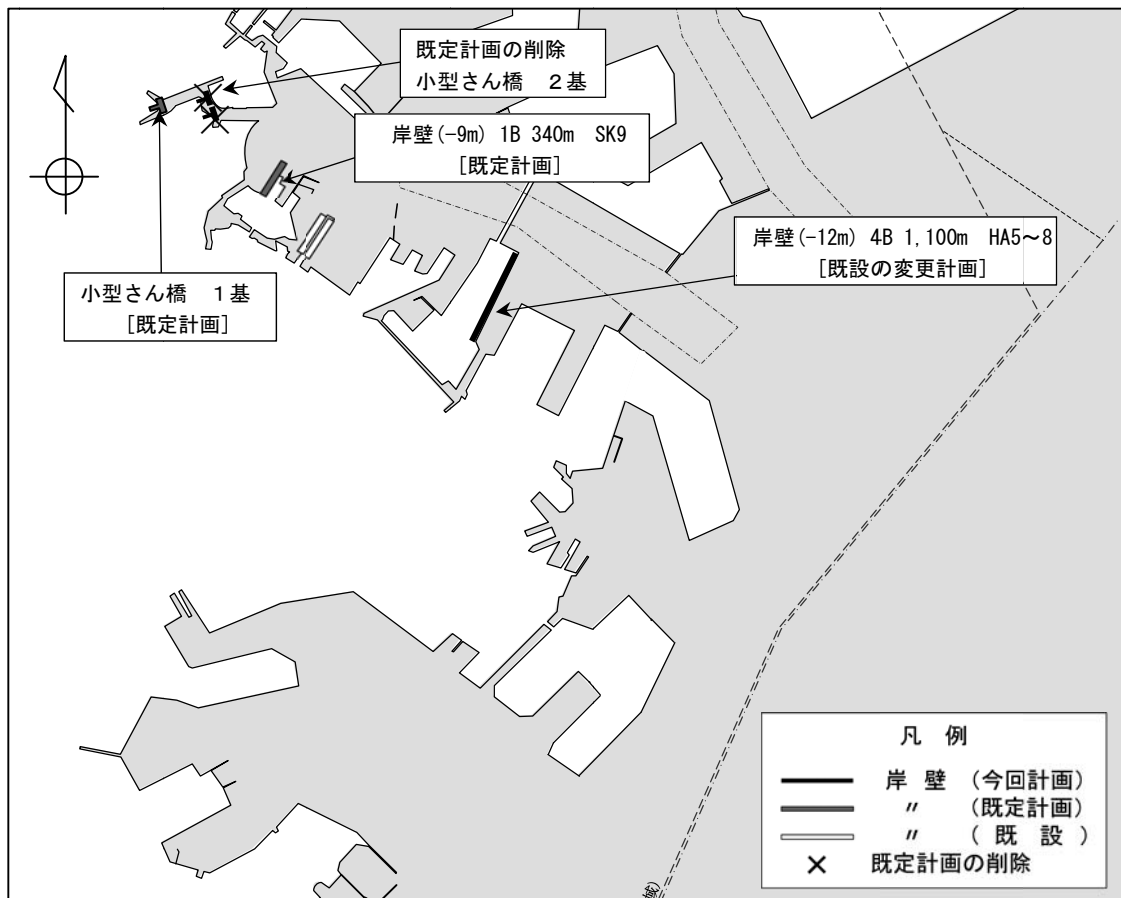


図 III-2-2 今回計画する旅客船埠頭の位置図

3. 専用埠頭計画

3-1 専用埠頭の現況

主な専用埠頭の現況は次のとおりである。

表 III-3-1 主な専用埠頭の現況（水深 4.5m 以上）（1）

鶴見区

管理者	名称	延長	水深	接岸能力(D/W)	バース数	用途
JFEエンジニアリング(株) 鶴見事業所	旭運河岸壁	165	6.0	1,300	1	砂利・砂
	鶴見中央岸壁	247	8.0	5,000	1	艀装用
	鶴見末広南物揚場	119	4.5	1,000	3	鋼材
JFEスチール(株) 東日本製鉄所(京浜地区)	スラグ棧橋〔ドルフィン〕	-	5.5	2,500	1	砂
	はしけバース	100	7.5	2,000	1	鋼材
	生コン材料荷役棧橋〔ドルフィン〕	-	5.5	700	1	生コン
	製品出荷A	250	10.0	3,000	1	鋼材
	扇島出荷岸壁Bバース	266	10.0	20,000	1	鋼材
	扇島出荷岸壁Cバース	267	12.5	30,000	1	鋼材
	扇島出荷岸壁Dバース	250	12.5	30,000	1	鋼材
	鶴見川岸壁	40	5.5	700	1	鋼材
EMGマーケティング合同会社	表棧橋〔ドルフィン〕	-	11.0	24,000	1	石油製品
	物揚場京浜運河	110	11.0	3,000	1	石油製品
ジャパンマリンユナイテッド(株) 横浜事業鶴見工場	西岸壁	250	6.0	49,000	1	艀装用
	東岸壁	264	6.0~9.0	96,000	1	艀装用
	南岸壁	200	6.0	6,000	1	艀装用
旭硝子(株)	1号バース	53	5.5	2,000	1	非金属鉱物
	2号バース	58	5.5	1,000	1	ガラス類
宇部三菱セメント(株)東京支店(鶴見SS) 三菱マテリアル(株)大黒町建材センター	Aバース	40	8.0	3,000	1	セメント
	Bバース	122	7.5	7,000	1	セメント
	Cバース	91	7.0	3,600	1	セメント
横浜液化ガスターミナル(株)	横浜液化ガスターミナル棧橋	106	9.5	2,500	1	LPG
(株)J-オイルミルズ横浜工場	食物油荷役棧橋	10	9.3	500	1	化学工業品〔油脂等〕
	中央棧橋	115	9.2	10,000	1	化学工業品〔油脂等〕
(株)東芝京浜事業所	製品船積棧橋	47	6.0	2,000	1	産業機械
	大型製品船積棧橋	31	5.0	4,000	1	電気機械
橋本産業(株)・日本ヴォパック(株)	橋本産業・日本ヴォパック共有棧橋〔ドルフィン〕	-	9.0	20,000	1	石油製品
三菱レイヨン(株)	三菱レイヨン3号棧橋〔ドルフィン〕	-	6.1	1,273	1	化学薬品
	三菱レイヨン4号棧橋〔ドルフィン〕	-	6.4	1,600	1	化学薬品
住友大阪セメント(株)	住友大阪セメント岸壁	95	8.5	6,200	1	砂利・砂
昭和シェル石油(株)横浜事業所	扇島スーパータンカーバース	343	12.0	70,000	1	原油
	表第1棧橋	106	12.0	33,000	1	石油製品
	表第2棧橋物揚場	63	5.5	1,000	1	石油製品
昭和産業(株)	昭和産業棧橋〔ドルフィン〕	-	10.0	5,000	1	穀類
太平洋製糖(株)	太平洋製糖棧橋	100	9.5	20,000	1	砂糖
大黒倉庫(株)	鶴見川棧橋	104	6.0	1,100	1	鋼材
大東タンクターミナル(株)横浜油槽所	1号棧橋	92	7.6	5,000	1	石油製品
	2号棧橋	28	6.0	1,970	1	石油製品
	5号棧橋	131	12.0	95,000	1	原油
東亜石油(株)扇島町工場	扇島西棧橋	70	7.8	5,000	1	石油製品
東京ガス(株)	旭運河側棧橋	213	6.5	2,000	1	LNG,LPG
	安善運河側岸壁	223	6.0	2,000	2	LNG,LPG
	鶴見工場棧橋	141	7.5	650	2	LNG,LPG
	扇島LNGバース	-	14.0	75,000	1	LNG
東京電力(株)横浜火力発電所	横浜火力発電所物揚場	84	5.0	1,000	1	原油
	第1バース〔ドルフィン〕	-	9.0	3,600	1	原油
内外輸送(株)	第1棧橋	41	4.5	2,000	1	化学薬品
日本埠頭倉庫(株)	化成品第1号棧橋〔ドルフィン〕	-	6.0	2,500	1	化学薬品
	化成品第2号棧橋〔ドルフィン〕	-	5.0	1,322	1	石油製品
横浜スーパーファクトリー	横浜スーパーファクトリー物揚場	60	7.0	700	1	-
	小 計	5,096			54	

表 III-3-2 主な専用埠頭の現況（水深 4.5m 以上）（2）

神奈川県

管理者	名称	延長	水深	接岸能力(D/W)	バース数	用途
横浜倉庫㈱	鈴繁埠頭1号岸壁	400	12.0	40,000	1	紙・パルプ
	鈴繁埠頭2号岸壁	99	10.0	20,000	1	豆類
	鈴繁埠頭3号岸壁	304	8.0	10,000	3	砂利・砂
	横浜倉庫物揚場	120	5.0	500	1	豆類
㈱京浜化学製品センター	危険物荷役専用岸壁硫酸本船受入棧橋〔ドルフィン〕	-	5.2	1,900	1	化学薬品
㈱日新	日新運輸倉庫神奈川倉庫物揚場	26	10.0	-	1	非鉄金属
	日新棧橋	244	10.0	20,000	1	穀物類
KDDI㈱	KDD荷役棧橋	148	8.0	5,200	1	非鉄金属
産業振興㈱	産業振興棧橋	33	6.0	2,000	1	鋼材
昭和電工㈱横浜工場	Aバース	267	9.0	30,000	1	金属鉱
	ドルフィン	-	9.0	5,000	1	廃棄物
JX日鉱日石エネルギー㈱横浜製造所	A棧橋〔ドルフィン〕	-	12.0	80,000	1	重油
	B棧橋〔ドルフィン〕	-	7.0	5,500	1	石油製品
	C、C1棧橋〔ドルフィン〕	-	8.0	5,300	1	石油製品
	E棧橋〔ドルフィン〕	-	6.0	2,000	1	石油製品
日本製粉㈱横浜工場	日本製粉棧橋〔ドルフィン〕	-	9.0	20,000	1	麦
NTTワールドエンジニアリングマリナー㈱	海底線エンジニアリングセンター棧橋	129	7.5	3,000	1	海底ケーブル敷設船けい・留
小 計		1,770			19	

中区

管理者	名称	延長	水深	接岸能力(D/W)	バース数	用途
国際埠頭㈱	国際埠頭A,Bバース	350	17.5	180,000	2	原塩
	国際埠頭Hバース	-	7.0	6,600	1	鉱産品
	国際埠頭C,Dバース	190	7.5	3,000	2	原塩
	国際埠頭Eバース	80	7.5	3,000	1	穀物類
	国際埠頭Gバース	185	6.5	700	1	穀物類
三菱重工業㈱横浜製作所	本牧工場1号岸壁	334	9.0	200,000	1	艦装用
	本牧工場3号岸壁A	196	9.0	25,000	1	艦装用
	本牧工場3号岸壁B	208	9.0	38,000	1	艦装用
	本牧工場4号岸壁	413	7.0	250,000	1	艦装用
	本牧工場6号岸壁	250	10.0	75,000	1	艦装用
	本牧工場7号岸壁	270	12.0	75,000	1	艦装用
	本牧工場9号岸壁	270	8.0	6,000	1	大型構造物(橋梁等)
住金物流㈱横浜営業所	住金物流棧橋	188	7.0	3,000	2	鋼材
JX日鉱日石エネルギー㈱根岸製油所	5万トン棧橋(B)〔ドルフィン〕	-	14.0	81,280	1	重油
	A-E棧橋	364	17.0	178,351	1	原油
	A-W棧橋	364	17.0	264,173	1	原油
	H-1棧橋	208	8.0	6,371	2	重油・原油
	H-2棧橋	208	8.0	6,371	2	石油製品
	H-3棧橋	208	8.0	6,371	2	石油製品
	H-4棧橋	279	8.0	7,700	2	石油製品
	H-5棧橋	291	8.0	7,700	2	重油
	LPG1号棧橋	23	6.2	2,000	1	LPG
	LPG2号棧橋	20	5.0	2,200	1	LPG
	S棧橋	30	6.2	1,607	1	その他石油製品
日産自動車㈱	本牧専用埠頭1号岸壁	180	10.0	17,000	1	完成自動車
	本牧専用埠頭2号岸壁	180	10.0	17,000	1	完成自動車
	本牧専用埠頭3号岸壁	110	4.5	1,500	1	完成自動車
日本通運㈱横浜支店	日通本牧岸壁	208	10.0	30,000	2	鋼材
三井物産㈱	三井物産本牧埠頭岸壁	208	11	30,000	1	鉄鋼
小 計		5,815			38	

表 III-3-3 主な専用埠頭の現況（水深 4.5m 以上）（3）

磯子区

管理者	名称	延長	水深	接岸能力(D/W)	ハース数	用途
宇部三菱セメント㈱(磯子菱光)	骨材荷揚棧橋	13	5.0	1,700	1	砂利・砂
宇部三菱セメント㈱横浜サービスステーション	横浜棧橋	80	7.5	12,000	1	セメント
ジャパンマリンユナイテッド㈱ 横浜事業所	第1突堤南側棧橋	224	10.5	150,000GT	1	艀装用
	第1突堤北側棧橋	182	9.0	20,000GT	1	艀装用
	第2突堤南側棧橋	220	10.5	13,500GT	1	艀装用
	第2突堤北側棧橋	220	10.5	10,000GT	1	艀装用
	第3突堤南側棧橋	250	9.0	183,000GT	1	艀装用
	第3突堤北側棧橋	256	9.0	100,000GT	1	艀装用
	第4突堤南側棧橋〔ドルフィン〕	-	17.0	100,000GT	2	艀装用
	第4突堤北側棧橋〔ドルフィン〕	-	17.0	100,000GT	2	艀装用
JX日鉱日石エネルギー㈱根岸製油所	C-2棧橋	224	7.0	4,000	2	原油
	C-3棧橋	199	7.0	4,000	2	重油
	C-4棧橋	199	7.0	4,000	2	石油製品
	D-1棧橋	100	5.0	700	2	石油製品
	D-2棧橋	99	5.0	700	2	石油製品
	D-3棧橋	99	5.0	700	2	重油
	D-4棧橋	99	5.0	700	2	重油
	E棧橋	129	4.5	1,200	2	石油製品
千代田冷蔵㈱	千代田冷蔵棧橋	90	6.0	700	2	水産品
太平洋セメント㈱	磯子工場岸壁	105	5.5	2,000	1	砂利・砂
電源開発㈱	灰捨棧橋〔ドルフィン〕	-	7.5	-	1	廃棄物
	石炭棧橋	142	7.5	2,000	1	石炭
	揚炭棧橋	160	7.5	10,000	1	石炭
	揚油棧橋	21	7.5	1,500	1	石油製品
東京ガス㈱	5万トンタンカーバース棧橋〔ドルフィン〕	-	14.0	72,000	1	LNG・LPG
日清オйлオググループ㈱ 横浜磯子事業場	磯子工場本船バース〔ドルフィン〕	-	12.5	55,000	1	豆類
	内航船棧橋	83	12.0	1,700	1	動植物性製造飼肥料
	内航船棧橋	70	12.0	1,000	1	動植物性製造飼肥料
	小 計	3,263			39	

金沢区

管理者	名称	延長	水深	接岸能力(D/W)	ハース数	用途
JFE物流㈱ 〔リバーsteel・鋼管部〕	リバーsteel㈱横浜工場2号岸壁	220	6.0	40,000	2	鋼材
	リバーsteel㈱横浜工場西物揚場	46	4.5	300	1	鋼材
	リバーsteel㈱横浜工場棧橋	-	7.0	6,200	1	鋼材
トヨタ自動車㈱	2号棧橋	146	9.5	12,000	1	完成自動車
	3号棧橋	259	12.5	50,000	1	完成自動車
旭企業㈱・鈴江コーポレーション㈱	旭企業・鈴江コーポレーション 棧橋〔ドルフィン〕	-	11.0	23,000	1	セメント・石油製品
㈱ヨコハマ全建	ヨコハマ全建棧橋〔ドルフィン〕	-	7.2	1,000	1	廃土砂
三菱重工業㈱横浜製作所	浜出し岸壁	500	10.5	15,000	1	産業機械
水産庁中央水産研究所	調査船けい留施設	120	7.5	2,500	1	調査船けい留
大黒倉庫㈱	磯子棧橋	80	7.0	2,000	1	鋼材
	係留杭	-	7.0	6,200	1	-
	小 計	1,371			12	
	合 計	17,315			162	

(資料:横浜港港湾台帳)

3-2 今回計画する専用埠頭の規模及び配置

今回計画する専用埠頭の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表 III-3-4 今回計画する専用埠頭の規模及び配置

地区名	施設名	水深	バース数	延長	規模及び配置の考え方
金沢	物揚場	2.1m	2	126m (68m 既設)	立地企業の施設利用に応じ変更する。
鶴見	物揚場	4.0m	1	90m	立地企業の施設利用に応じ変更する。

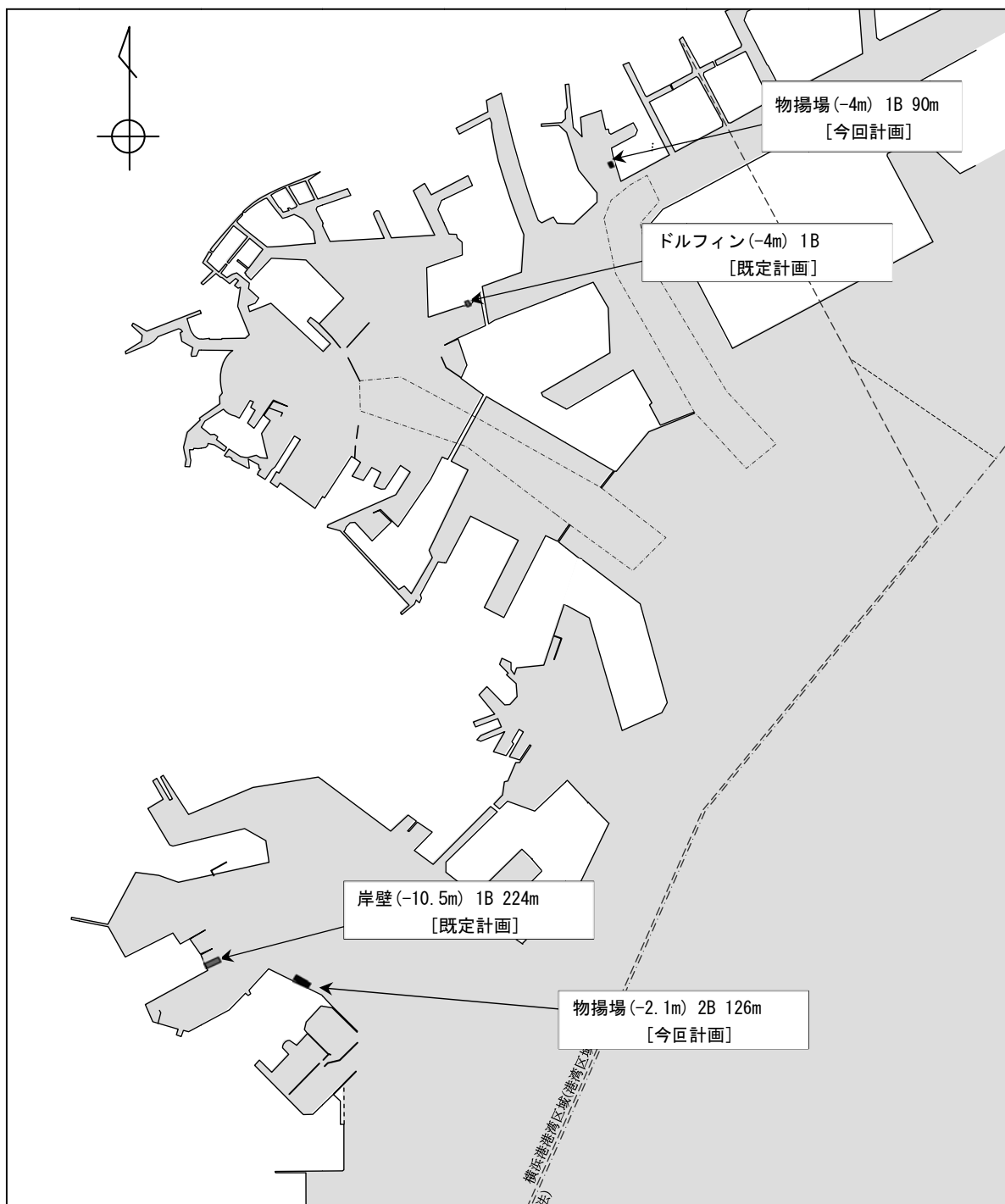


図 III-3-1 今回計画する専用埠頭の位置図

(1) 金沢地区

金沢区鳥浜の富島運輸株式会社は、同社敷地内にロジスティクス工場を増設し、既存の工場と一体として運用している。これに伴い、はしけの係留施設が必要になっていることから、既設の物揚場を延長する。

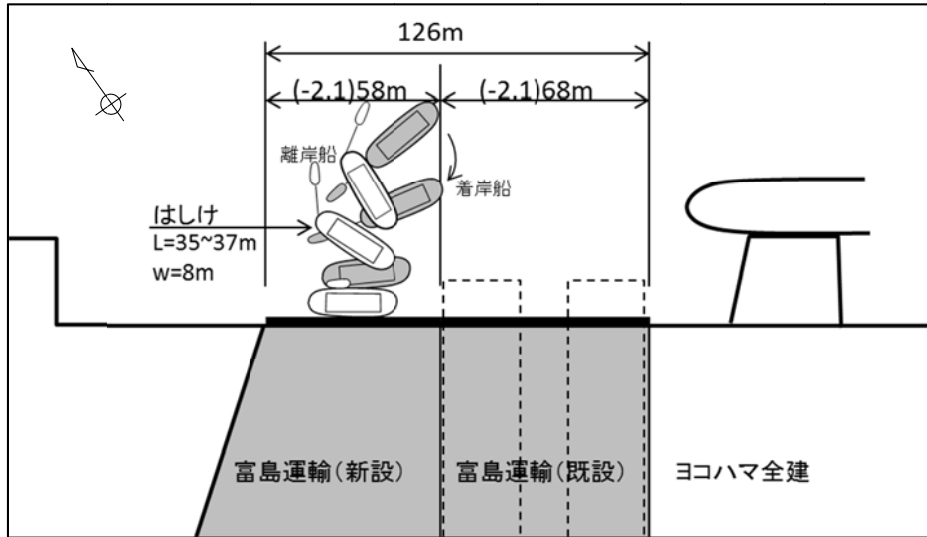


図 III-3-2 施設計画図および操船例図

(2) 鶴見地区

鶴見地区の株式会社東芝京浜事業所は、火力、水力、原子力発電機器の製造を行っており、このうち、火力発電では、ガスタービンの排熱を蒸気タービンの熱源として再利用する発電方式が増えている。これに伴い、火力発電所向け排熱回収熱交換器の出荷対応が必要となっているため、当事業所の西側に新規の岸壁を計画する。



図 III-3-3 操船例図

4. 水域施設計画

(1) 泊地計画

① 主要な泊地の現況

主要な泊地の現況は、次のとおりである。

表 III-4-1 主要な泊地の現況

地区名	水深 (m)	面積 (ha)	状 況	備 考
神奈川 (瑞穂ふ頭)	12	0.8	既 設	
	10	0.7	既 設	
	5.5	16.9	既定計画	
内港 (新港地区)	9	1.0	既定計画	
大黒ふ頭	15	3.8	既 設	
	13	67.9	既 設	
本牧ふ頭	15~16	7.5	既定計画	
	13	5.2	既 設	
	13	2.2	既 設	
南本牧ふ頭	18~	0.3	既 設	
磯子	14	104.9	既 設	
	12.5	29.9	既 設	
	10.5	10.8	既定計画	
	6.5	0.1	既 設	

② 今回計画する泊地の規模及び配置

今回計画する泊地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表 III-4-2 今回計画する泊地の規模及び配置

地区名	水深 (m)	面積 (ha)	状 況	規模及び配置の考え方
本牧ふ頭	16	1.7	既定計画の変更計画	船舶の停泊に必要な面積を岸壁前面に確保する。
	14	2.7	既定計画の変更計画	船舶の停泊に必要な面積を岸壁前面に確保する。
大黒ふ頭	11	7.0	今回計画	船舶の停泊に必要な面積を岸壁前面に確保する。

(2) 航路・泊地計画

① 主要な航路・泊地の現況

主要な航路・泊地の現況は、次のとおりである。

表 III-4-3 主要な航路・泊地の現況

地区名	水深 (m)	面積 (ha)	状 況	備 考
内港 (新港地区)	9	0.7	既定計画	
大黒ふ頭	15	58.6	既 設	
本牧ふ頭	13~16	94.1	既定計画	
南本牧ふ頭	18~	0.7	既 設	

② 今回計画する航路・泊地の規模及び配置

今回計画する航路・泊地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表 III-4-4 今回計画する航路・泊地の規模及び配置

地区名	水深 (m)	面積 (ha)	状 況	規模及び配置の考え方
大黒ふ頭	11	2.1	今回計画	対象船舶の航行、操船に必要な面積を岸壁前面に確保する。
本牧ふ頭	16	29.7	既定計画の変更計画	対象船舶の航行、操船に必要な面積を岸壁前面に確保する。

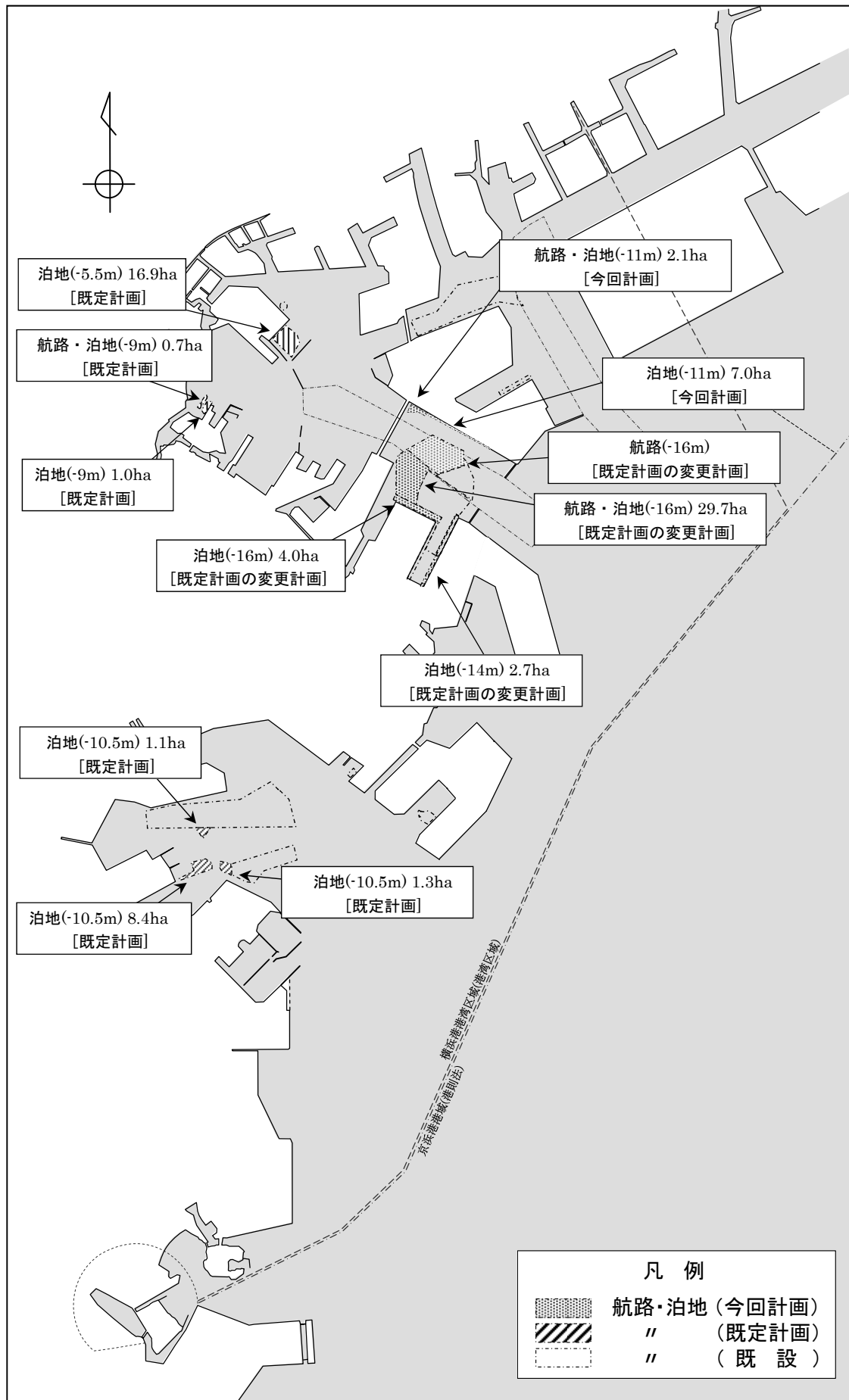


図 III-4-1 今回計画する泊地及び航路・泊地の位置図

5. 外郭施設計画

(1) 防波堤

① 主要な防波堤の現況

主要な防波堤の現況は、次のとおりである。

表 III-5-1 主要な防波堤の現況

地区名	名称	延長(m)	状況
鶴見	西防波堤	230	既定計画
山下ふ頭	東水堤	470	既設
神奈川 (瑞穂ふ頭)	北水堤	1,214	既設
	船だまり防波堤	400	既定計画
本牧ふ頭	南堤	209	既設
	南堤(撤去)	70	既定計画
	本牧防波堤	277	既設
	東防波堤	490	既定計画
大黒ふ頭	大黒防波堤	750	既設
	北堤	116	既設
金沢	金沢木材ふ頭東(内)防波堤	690	既設
	金沢木材ふ頭東(内)防波堤(撤去)	90	既定計画
	金沢木材ふ頭西防波堤	490	既設
	金沢木材ふ頭東(外)防波堤	565	既設
	金沢マリーナ防波堤(B, C)	591	既設
	金沢マリーナ防波堤(A)	660	既設
	八景島防波堤	236	既設

② 防波堤計画の必要性

新本牧ふ頭の岸壁静穏度を確保するため、新本牧ふ頭先端部に防波堤を計画する。

③ 今回計画する防波堤の規模及び配置

今回計画する防波堤の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

なお、新本牧ふ頭地区における公共埠頭計画に伴い、次の計画を削除する。

本牧ふ頭地区 東防波堤 延長 490m (既定計画)

表 III-5-2 今回計画する防波堤の規模及び配置

地区名	施設名	延長	状況	防波堤の規模及び配置の考え方
新本牧ふ頭	防波堤	150m	今回計画	岸壁前面波高が静穏度を満足するように、埠頭先端部に配置する。

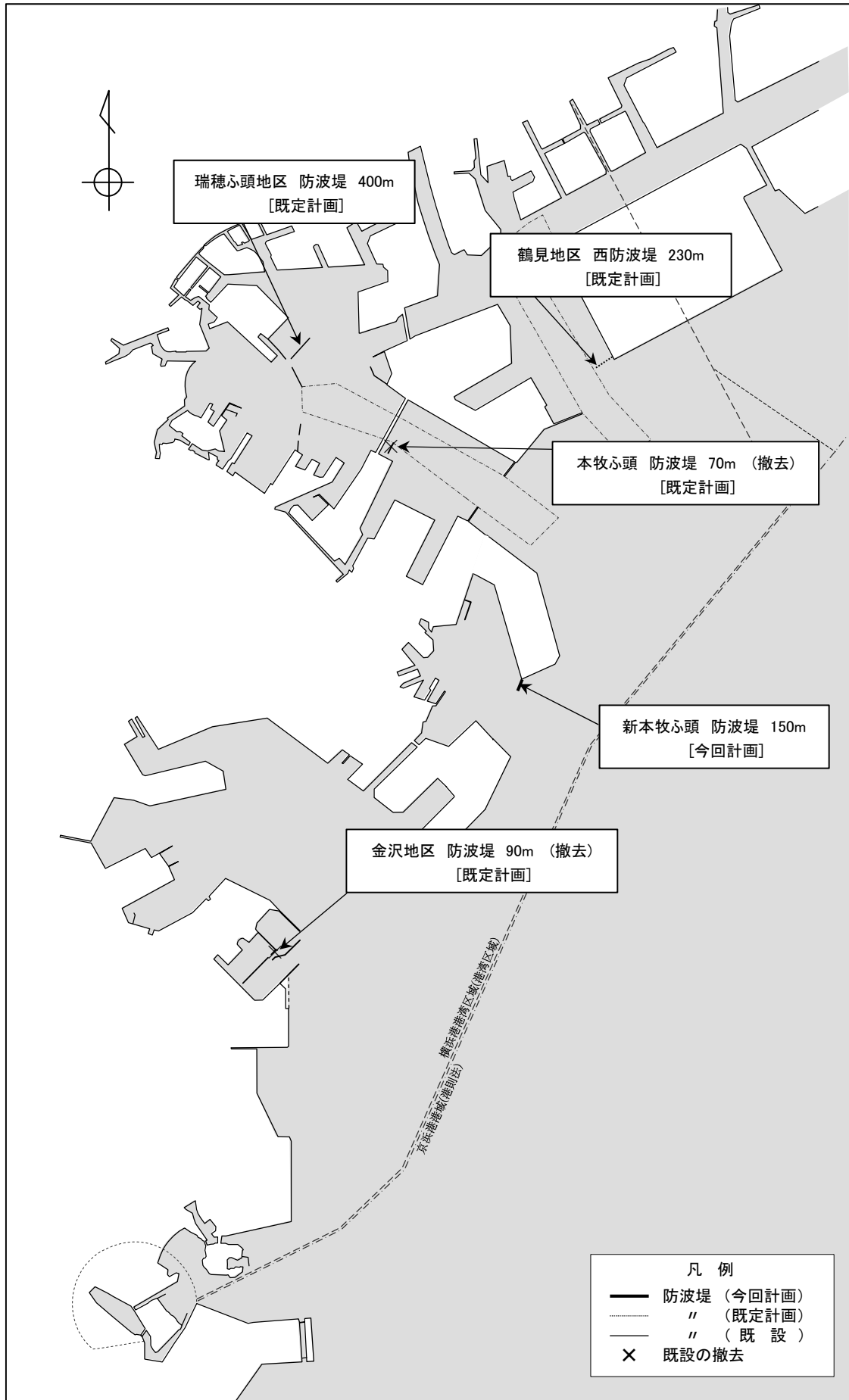


図 III-5-1 今回計画する防波堤の位置図

(2) 静穏度の検討

① 静穏度の目標の設定

静穏度の目標は、荷役時および異常気象時においても港湾の施設の性能に大きな被害をもたらさないよう設定する。

表 III-5-3 静穏度の目標

区分	係留施設前面波高	稼働率
通常時	0.5m 以下	97.5%以上
異常時	1.5m 以下	—

② 通常時の静穏度

非定常緩勾配不規則波動方程式を用いた数値解析により算出した稼働率は以下のとおりである。

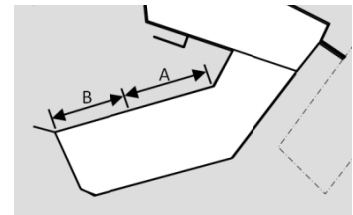


図 III-4-2 波高算出位置図

表 III-5-4 波高比および稼働率算出結果

波向	地点別波高比		許容沖波波高(m)		超過波高出現率	
	A	B	A	B	A	B
N	0.08	0.11	2.0 以上	2.0 以上	0.0%	0.0%
NNE	0.05	0.12	2.0 以上	2.0 以上	0.0%	0.0%
NE	0.04	0.06	2.0 以上	2.0 以上	0.0%	0.0%
ENE	0.11	0.68	2.0 以上	0.74	0.0%	0.0%
E	1.11	0.18	0.45	2.0 以上	1.0%	0.0%
ESE	0.12	0.52	2.0 以上	0.96	0.0%	0.0%
SE	0.24	0.16	2.0 以上	2.0 以上	0.0%	0.0%
SSE	0.13	0.12	2.0 以上	2.0 以上	0.0%	0.0%
S	0.15	0.29	2.0 以上	1.72	0.0%	0.0%

表 III-5-5 稼働率算出結果

地点	限界波高出現率(%)	稼働率(%)
A 地点	1.0	99.0 > 97.5
B 地点	0.0	100.0 > 97.5

③ 異常時の解析結果

A 地点および B 地点のすべてにおいて、波高 1.5m 以下を満足する。

表 III-5-6 50 年確率波における地点別波高

波向	波高 (m)	地点別波高比		地点別波高 (m)	
		A	B	A	B
N	0.84	0.04	0.05	0.03	0.04
NNE	0.79	0.05	0.06	0.04	0.04
NE	0.67	0.05	0.09	0.03	0.06
ENE	0.70	0.19	0.56	0.13	0.39
E	0.90	1.03	0.17	0.93	0.15
ESE	0.70	0.12	0.29	0.09	0.20
SE	1.29	0.11	0.08	0.14	0.11
SSE	2.43	0.32	0.36	0.78	0.87
S	2.24	0.34	0.26	0.76	0.59

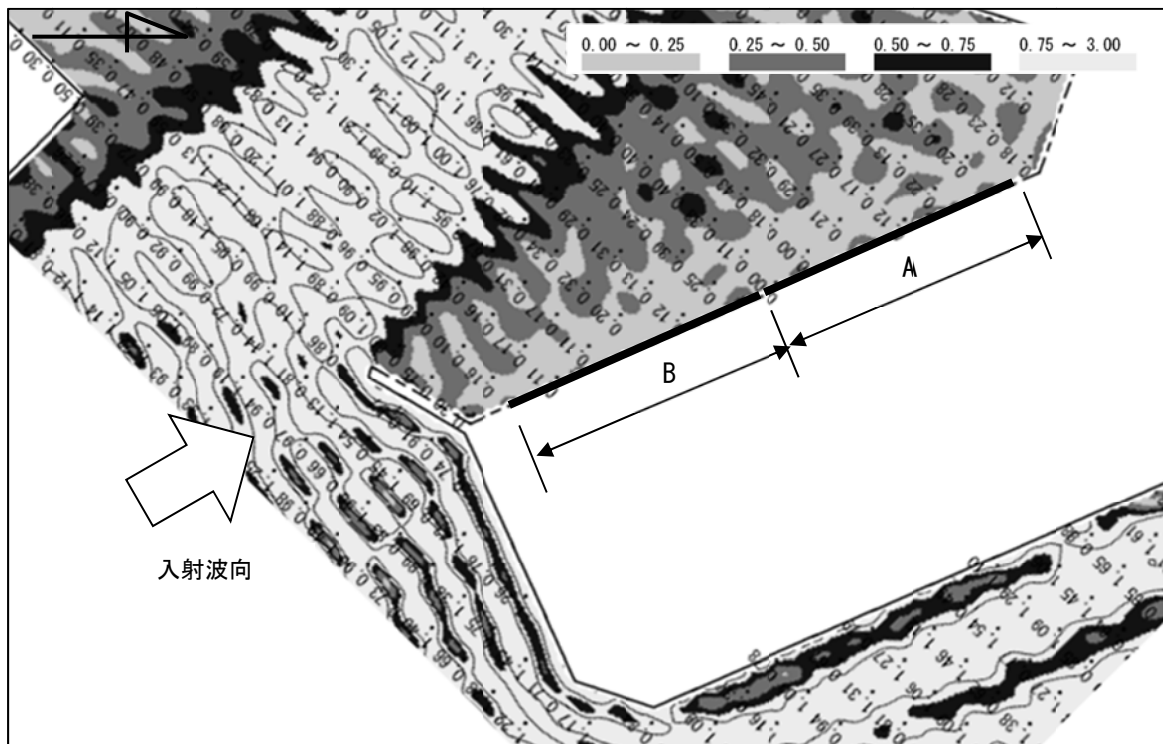


図 III-5-3 代表波向静穏度解析結果 (常時)

6. 小型船だまり計画

(1) 小型船（業務船）溜まり計画

① 小型船（業務船）溜まりの必要性

横浜港では多種多様な小型船が活動しており、航行の安全性や良好な景観などの観点から適切に係留施設を確保する必要がある。

また、山下ふ頭の再開発など、既存施設の土地利用転換に伴い、現行の小型船だまり計画を見直す必要がある。

② 対象船舶・隻数の考え方

対象船舶は、船舶の入出港や港湾の開発・維持を支援する船舶とする。係留場所を必要とする対象船舶数は係留状況調査の結果から 552 隻である。

対象船舶…タグボート、交通船、清掃船、はしけ、油槽船、官公庁船等

③ 小型船（業務船）だまりの規模及び配置

小型船だまりの規模及び配置は次のとおりである。

表 III-6-1 小型船（業務船）溜まりの規模及び配置

係留場所		隻数	対象船舶	備考
鶴見地区	境運河	10	業務船	-
	末広油槽船だまり	14	業務船、油槽船	-
	末広物揚場	10	業務船	-
	大黒町（廃油処理場跡地）	20	業務船	新規
大黒ふ頭地区	2号物揚場	60	業務船、はしけ	-
	3号物揚場	34	業務船	-
	4号物揚場	22	業務船	-
内港地区	瑞穂ふ頭前面	51	業務船	-
	中央地区	20	業務船、官公庁船	-
	象の鼻パーク（旧東西プール）	25	業務船、官公庁船	-
	大棧橋基部	37	業務船、官公庁船	-
山下ふ頭地区	1～6号岸壁	0	-	廃止
	6～10号岸壁	34	タグボート	新規
	1, 3, 4号物揚場	0	-	廃止
	2号物揚場	0	-	廃止
	6号物揚場	0	-	廃止
	7号物揚場	0	-	廃止
新山下地区	内水面	116	はしけ	-
本牧ふ頭地区	A突堤基部岸壁	21	はしけ	-
	2号物揚場	5	業務船	-
	3, 4号物揚場	20	業務船	-
	5号物揚場	5	業務船	-
	本牧建材ふ頭	48	業務船	-
合計		552		

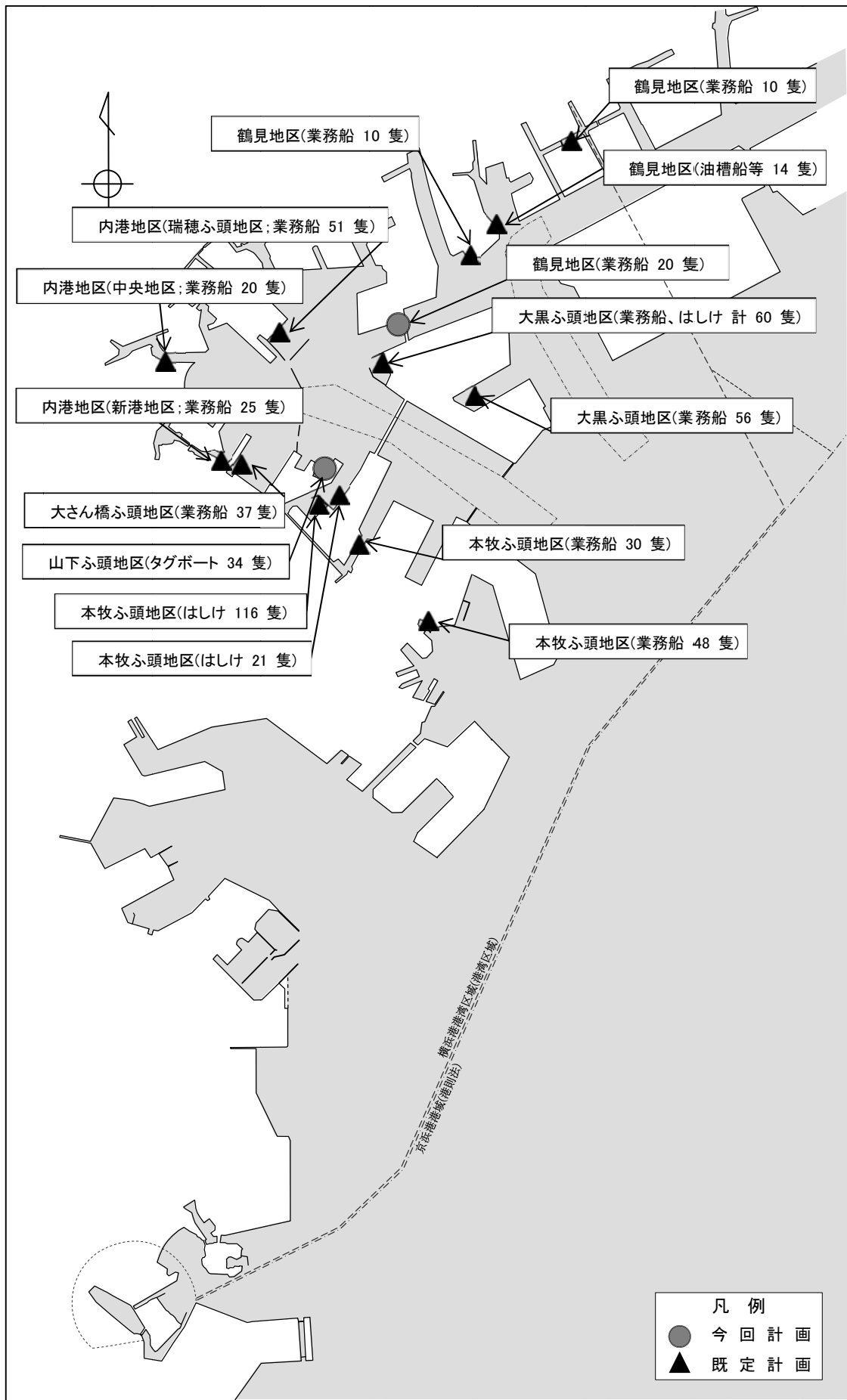


図 III-6-1 小型船（業務船）溜まりの位置図

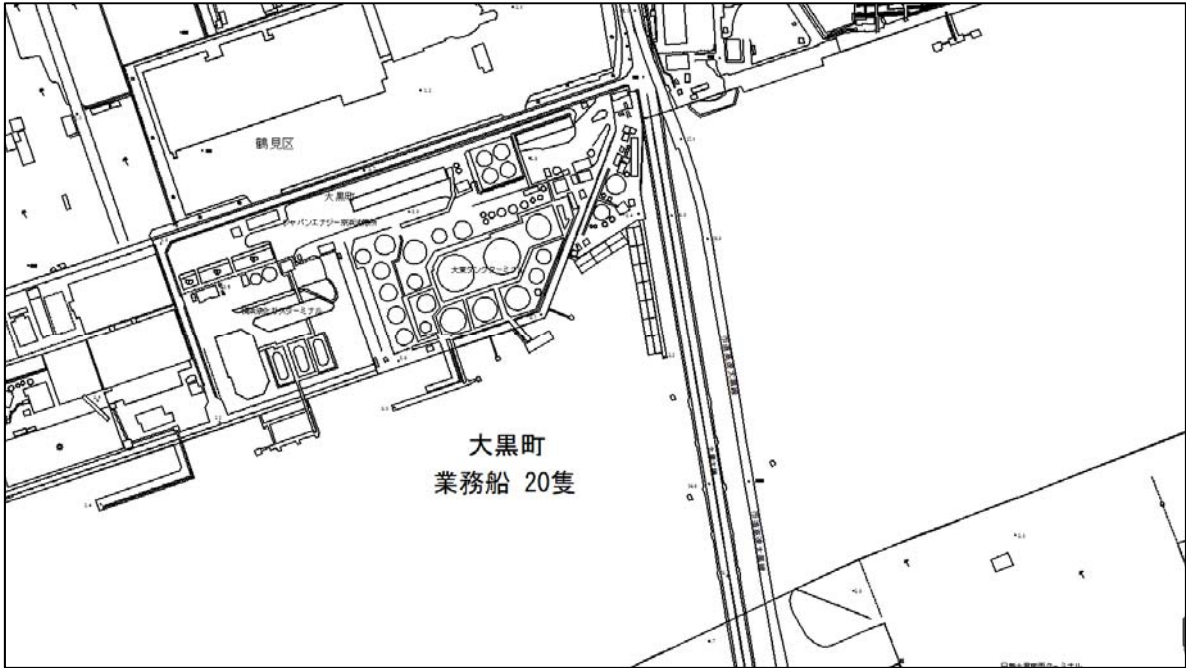


図 III-6-2 鶴見地区小型船（業務船）溜まり配置図

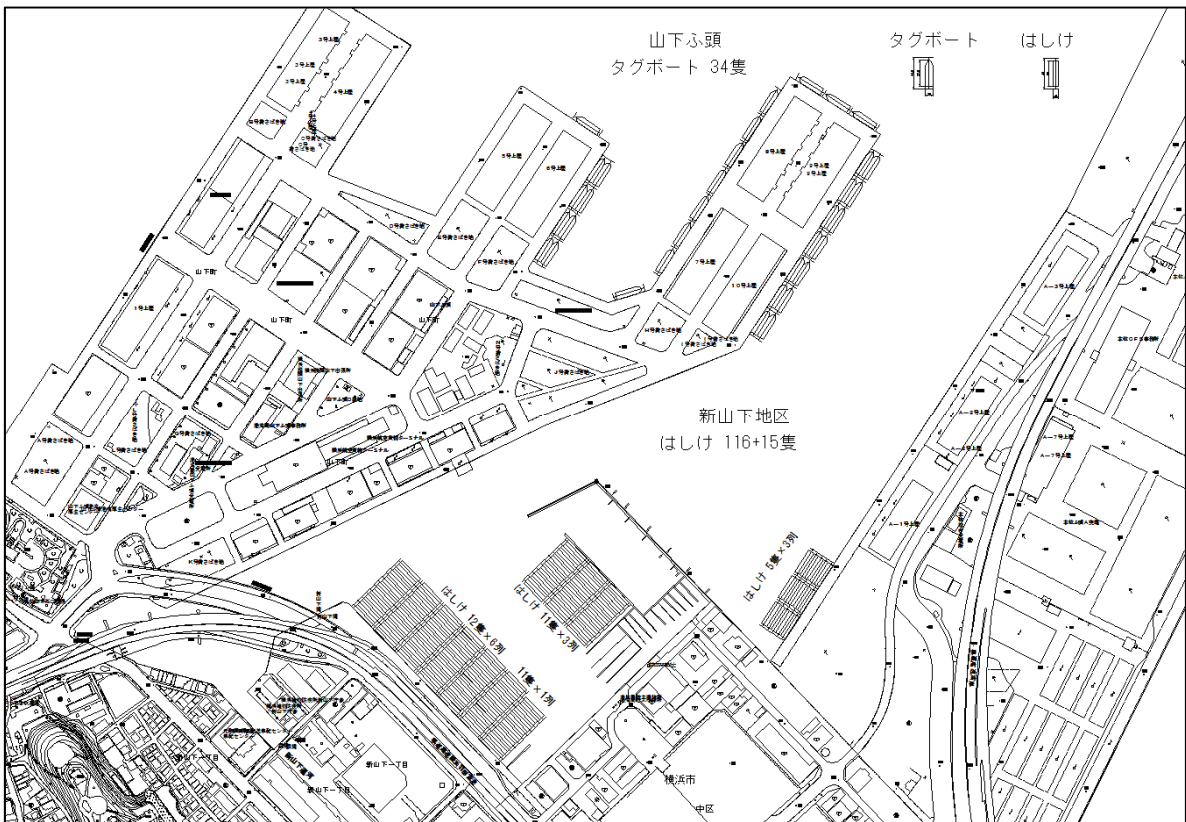


図 III-6-3 山下ふ頭地区小型船（タグボート・はしけ）溜まり配置図

(2) 作業船の係留に対応する区域

① 必要性と背景

全国的な作業船の保有数は、平成 25 年には平成 11 年の半数を下回る船種があるなど、減少が続いている。一方で、港湾の開発や維持管理を行う上で作業船は必要不可欠であり、災害時においても航路啓開や港湾施設の復旧に貢献するなど、必要性は依然高いものとなっている。

② 計画内容

港湾の開発や維持管理を着実に進めるため、金沢地区において「作業船の係留に対応する区域」を設定し、港内に作業船の係留場所を確保する。

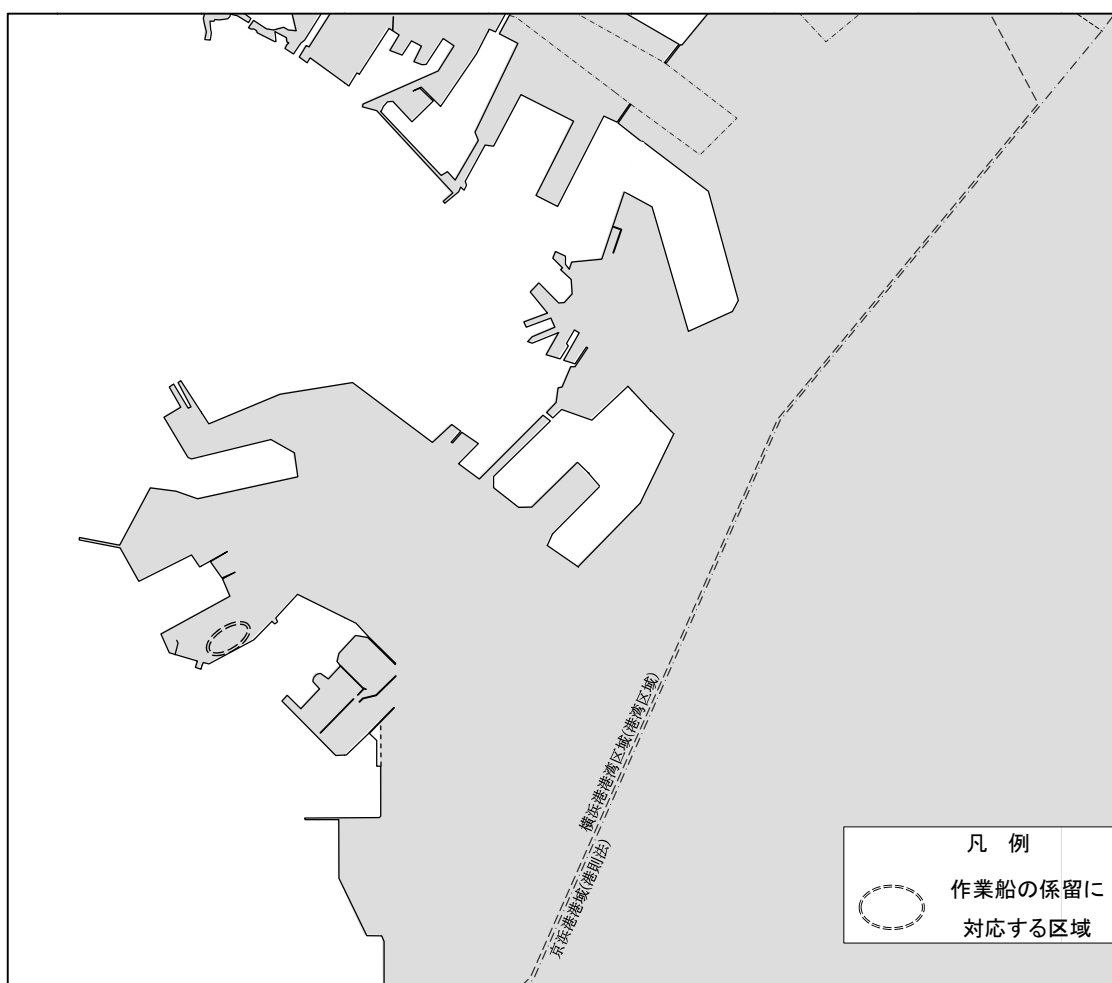


図 III-6-4 今回計画する作業船の係留に対応する区域

(3) プレジャーボート保管施設計画

① 必要性と背景

全国のプレジャーボート保有隻数は、小型船舶操縦免許取得者やボートオーナーの高齢化などを背景に減少傾向にあり、横浜港においても同様の傾向にある。

また、放置プレジャーボートについては、河川・運河を中心にいまだ見られるが、横浜ベイサイドマリーナの整備や、放置艇対策により減少傾向にあり、近年は概ね 600 隻程度で推移している。

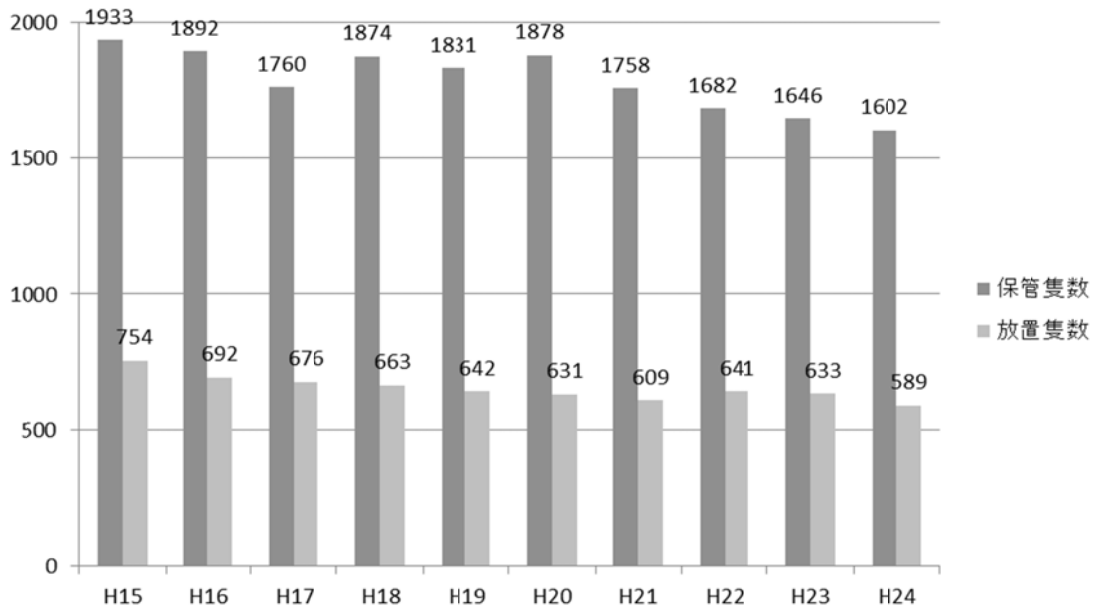


図 III-6-5 横浜港のプレジャーボート隻数の推移

② 計画内容

プレジャーボート保管施設の一つである横浜ベイサイドマリーナは、計画隻数 2,000 隻に対し保管隻数が 1,090 隻であり、さらに 910 隻の収容が可能である。

放置プレジャーボートを十分に収容できる水域を確保していることから、既定計画どおりとする。

表 III-6-2 横浜ベイサイドマリーナの現状と計画隻数

既定計画隻数	平成 24 年の保管隻数	収容可能隻数	備考
2,000 隻	1,090 隻	910 隻	

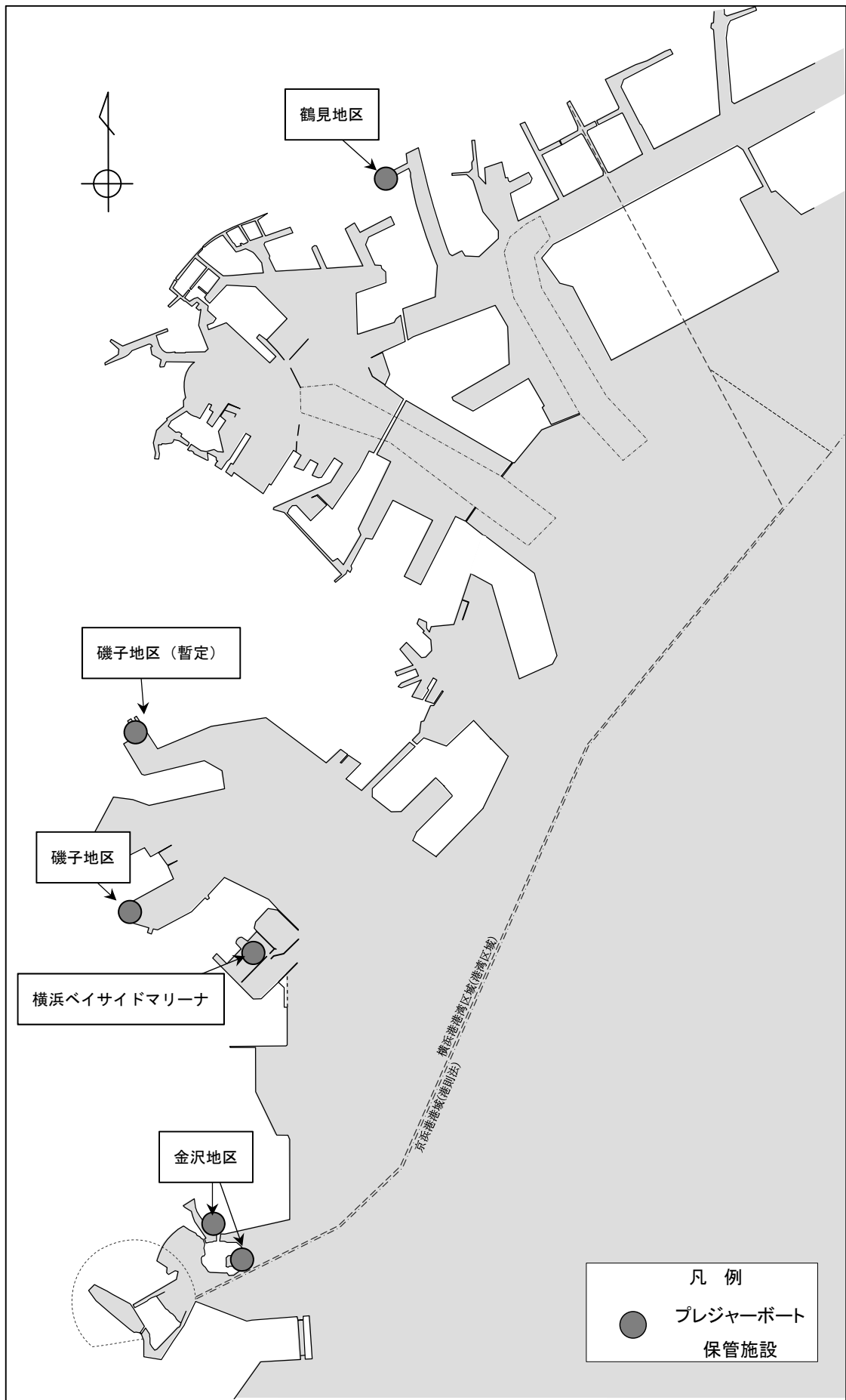


図 III-6-6 プレジャーボート保管施設配置図

7. 臨港交通施設計画

(1) 主要な臨港道路の現状

主要な臨港道路の現状は、次のとおりである。

表 III-7-1 主要な臨港道路の現況

種別	施設名	起点	終点	車線数	既設、工事中、既定計画の別
臨 港 道 路	臨港幹線（区間 A）	市道新子安 大黒線	臨港幹線 山内ふ頭	4～8	既定計画 （一部供用中）
	臨港幹線（区間 B）	臨港幹線 山内ふ頭	臨港幹線 山下ふ頭	4～8	既定計画 （一部供用中）
	臨港幹線（区間 C）	臨港幹線 山下ふ頭	本牧ふ頭 D 突堤 1 号線	4	既定計画
	本牧ふ頭 D 突堤 1 号線	本牧ふ頭 D 突堤基部	本牧ふ頭 D 突堤先端部	6	既設計画
	南本牧ふ頭幹線	南本牧ふ頭 先端部	国道 357 号線	6	既定計画 （一部供用中）
	第二南本牧ふ頭幹線	南本牧ふ頭	市道豊浦町 第 52 号線	2	既定計画 [工事中]
	第二南本牧ふ頭幹線 （首都高速湾岸線 連絡臨港道路）	第二南本牧 埠頭幹線	首都高速湾岸線	2	既定計画 [工事中]
	南本牧ふ頭内道路	南本牧ふ頭	第二南本牧 埠頭幹線	4	既設
	瑞穂ふ頭幹線	瑞穂ふ頭 公共岸壁	市道東神奈川線	4	既設
	新港 1 号線	海岸通	臨港幹線	4	既設
	新港 2 号線	臨港幹線	埠頭用地地区	2～4	既設
	新港 3 号線	万国橋通	埠頭用地地区	4	既設
	本牧ふ頭連絡線	市道新山下 40 号湾岸線	一般国道 357 号	2	既定計画 [工事中]
	大黒ふ頭連絡線	大黒ふ頭 臨港道路	一般国道 357 号	2	既設
大さん橋 1 号線	旅客船埠頭	市道海岸通	2	既設	



図 III-7-1 主要な臨港道路の現状図

(2) 臨港交通施設計画の必要性和計画内容

① 臨港道路計画の必要性

臨港地区から発生する交通の円滑な処理、及び埠頭から発生する物流交通の市街地への流入の抑制、埠頭間や広域幹線道路との連絡強化など、既定の道路計画を整備促進するとともに、新たに計画する新本牧ふ頭へのアクセスを確保する必要がある。

② 今回計画する臨港道路の規模及び配置

今回計画する臨港道路の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表 III-7-2 今回計画する臨港道路の規模及び配置

種別	施設名	起点	終点	車線数	状況	規模及び配置の考え方
臨 港 道 路	臨港幹線 (区間 A)	市道新子安 大黒線	臨港幹線 山内ふ頭	4～8	既定計画 (一部既設)	既定計画どおりとする
	臨港幹線 (区間 B)	臨港幹線 山内ふ頭	臨港幹線 山下ふ頭	4～8	既定計画 (一部既設)	既定計画どおりとする
	臨港幹線 (区間 C)	臨港幹線 山下ふ頭	本牧ふ頭 D 突堤	4	既定計画の 変更計画	規模は既定計画通りと し、終点を変更する
	臨港幹線 (区間 D)	臨港幹線 本牧ふ頭 D 突堤	新本牧ふ頭	4～6	今回計画	新本牧ふ頭への円滑な交 通アクセスを確保する
	南本牧 埠頭幹線	南本牧ふ頭 先端部	国道 357 号線	6	既定計画 (一部既設)	既定計画どおりとする
	第二南本牧 埠頭幹線	南本牧ふ頭	市道豊浦町 第 52 号線	2	既定計画	既定計画どおりとする
	第二南本牧 埠頭幹線 (首都高速湾岸線 連絡臨港道路)	第二南本牧 埠頭幹線	首都高速 湾岸線	2	既定計画	既定計画どおりとする
	本牧 埠頭連絡線	南本牧ふ頭	第二南本牧 埠頭幹線	4	既定計画	既定計画どおりとする

※臨港幹線道路と国道 357 号を接続する本牧ふ頭 A 突堤周辺のランプについては、山下ふ頭における土地利用検討の進捗に応じて、その必要性や最適な線形を再検討していく。

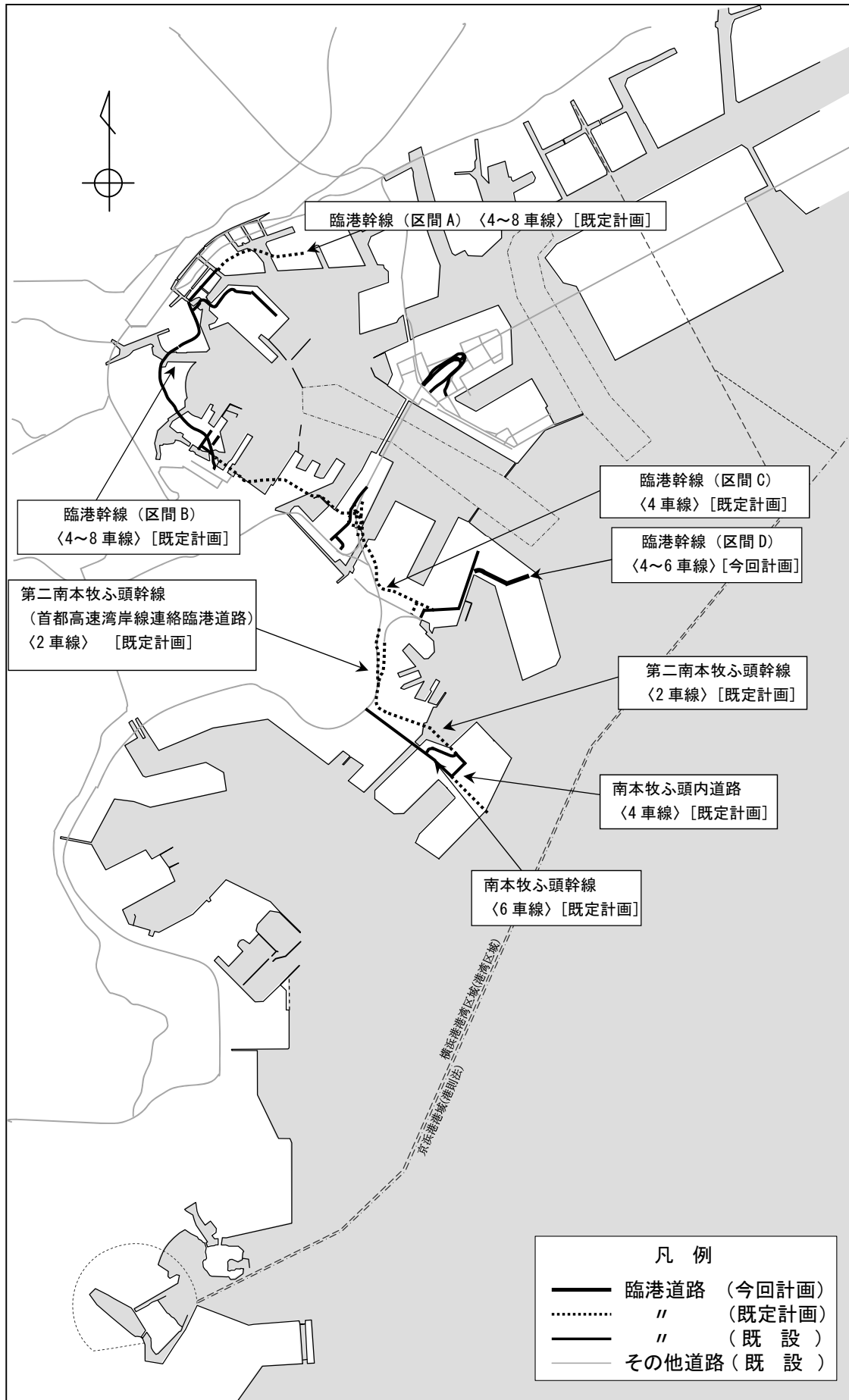


図 III-7-2 今回計画する臨港道路の位置図